明治四十年三月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百八號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第貳百八號目次

大日本婦人衛生會

總會幷春季懇親會告知

拜啓陳者來二十三日（第四土曜日）午後一時より麴町區永田町二丁目一番地本會會長鍋島侯爵夫人の御邸に於て晴雨に拘はらず本會總會を兼ね春季懇親會相催し候間左の各項御了承御親族御知友御誘引御來會被下度此段御案内申上候也

一會費　懇親會々費は御一人金五拾錢當日御持參被下度御同伴者又同じ

一御出席　御缺席ともに來二十日迄に本會事務所宛御一報被下度御同伴有之候へば其御人數とも

一選擧　會則により當日役員改選擧行致し候間先月分雜誌名簿により來二十日迄に本會事務所宛御差出有之度御出席の御方は當日午後一時迄に御持參のこと

一徽章　當日本會徽章は可成御忘れなく御佩用の事

一はきもの　園内にては靴、草履、駒下駄の外は御使用なき事

擧行次第

一三月二十三日

一午後一時　開會　一奏樂　音樂隊　一園内逍遙　隨意

一午後一時半　式場集合　一開會の辭　會長　一事務及會計報告　役員

一休憩

餘興

一エビ一大神樂一座　一長唄　杵屋小三郎門人

閉會　四時半

明治四十年三月

牛込區上宮比町八番地

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならすや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいと緊要の事にして苟も吾等婦人のもつばら擧るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を怠るかざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衞生上諸般の演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めにすあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸彦に告け其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衞生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ以て社會一般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續を末に詳なり、入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるべし但一時納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に排賦員を置き其中より總裁一名を推し皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事十名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は時宜に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は必要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る　幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす満期再選することを得若し任期中缺員を生するときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衞生上の講義演說談話を嘱托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知已の婦人を本會々場に致し講義演説を傍聽せしむるを得　但衣服は總て質素たるべきこと●第十九條　講義演説席は男子の傍聽を禁す●第二十條　規則の改正其他重要の件評定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て　本會規則の改正に庶務の概要會員の增減を報告すべし●第廿二條　本會會計の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計總代の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會々長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を設くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の度に其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝状を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割増）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の妨害となるべき所爲ある者又は屡々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衞生會

●役員姓名

- 東伏見宮依仁親王妃
- 總裁　周子殿下
- 會長　侯爵夫人　鍋島榮子
- 副會長　濱尾作子

（いろは順）

- 幹事　鳩山春子
- 仝　羽田三緒子
- 仝　岡田總子
- 仝　高木かう子
- 仝　山木多穗子
- 仝　松平芳子
- 仝　三浦教子
- 仝　石川良子
- 仝　岩下ゆか子
- 評議員　濱田捨子
- 仝　長谷川仲子
- 仝　仁禮壽賀子
- 仝　四[illegible]升子
- 仝　穗積歌子
- 仝　土肥多越子
- 仝　緒方悅子
- 仝　岡山とし子
- 仝　小川寧子
- 仝　男爵夫人　加藤鈴子
- 仝　片山龜子
- 仝　吉武輝枝子
- 仝　丹波貞子
- 仝　高橋寧子
- 仝　田村きよ子
- 仝　男爵夫人　南部殷子
- 仝　中濱芳子
- 仝　子爵夫人　松井正子
- 仝　岸、清子
- 仝　三宅藤子
- 仝　宮本榮子
- 仝　宮下吹子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

- 醫學博士　●入澤達吉君
- 理學博士　●飯島魁君
- ドクトル　●伊澤信平君
- ●色川圀士君
- 醫學博士　●伊東祐彦君
- ドクトル　●飯盛挺造君
- 醫學博士　●伊藤隼三君
- 理學博士　●石川千代松君
- 日本赤十字社病院醫長　岩井禎造君
- 醫學士　●石原久君
- 醫學士　●廣瀬雄一君
- 醫學士　●石原喜久太郎君
- 貴族院議員　濱尾新君
- 醫學博士　●濱田玄達君
- 法學博士　●鳩山和夫君
- 東京　●萩原[illegible]四郎君
- 醫學博士　●芳賀榮二郎君
- 長谷川泰君
- 新潟　長谷川一詮君
- 小兒科　●小原和之君
- 醫學博士　●岡田榮吉君
- 醫學博士　●林春雄君
- 醫學博士　●佐藤達次郎君
- 醫學博士　●緒方正規君
- 步兵中佐　●竹內文次郎君
- 醫學博士　●土肥慶藏君
- 醫學博士　●岡田和一郎君
- 醫學博士　●大澤謙二君
- 醫學士　●大西秀治君
- 醫學博士　●大澤岳太郎君
- 一等藥劑官　●恩田重信君
- 醫學士　●若杉喜三郎君
- 醫學士　●渡邊房吉君
- 男爵　●加藤弘之君
- 醫學博士　●加藤照麿君
- 醫學士　●賀古鶴所君
- 醫學博士　●河本重次郎君
- 醫學博士　●片山國嘉君
- 醫學士　●川上雅盈君
- 醫學士　●[illegible]田龜一郎君
- 醫學博士　●金杉英五郎君
- 醫學士　●笠原光興君
- 醫學士　●野澤光德君
- 醫學士　●河野衞君
- 醫學博士　●高橋順太郎君
- ドクトル　●高山紀齋君
- 醫學博士　●高木兼寛君
- 法學博士　●高木豊三君
- 醫學博士　●田代義德君
- 新潟　田代亮助君
- 男爵　●高崎正風君
- 醫學士　●竹中成憲君
- 醫學士　●高山耕安君
- 新潟醫學校長　●高橋辰五郎君
- 藥學博士　●丹波敬三君
- 醫學士　高橋貞碩君
- 藥學博士　●田原良純君
- 醫學士　●田村光顯君
- 醫學士　●久保猪之吉君
- 醫學士　●米山孝郎君
- 二等軍醫正　●星野孫光君
- 醫學士　宮本叔君
- 三等軍醫正　●横井忠國君
- 大日本教育會長　辻新次君
- 理學博士　●坪井正五郎君
- 醫學博士　●長與稱吉君
- 男爵　南部甕男君
- 藥學博士　●長井長義君
- 醫學博士　●遠山椿吉君
- 醫學博士　●中濱東一郎君
- 醫學士　●[illegible]山玄通君
- 醫學士　●栗木[illegible]勝君
- 海軍中佐　●小笠原長生君
- 醫學士　村松[illegible]三君
- 醫學博士　●隈川宗雄君
- 醫學博士　●栗本東明君
- 醫學士　●山田鐵三君
- 醫學士　●山田弘倫君
- 醫學士　●山根正次君
- 岡山　●山川春二君
- 衛生試驗所技手　●丸山長四郎君
- ドクトル　●松山陽太郎君
- ドクトル　●小此木信六郎君
- 盲啞學校長　小西信八君
- 廣島　●小泉[illegible]君
- 醫學士　●古川榮君
- 東京　布施正顯君
- [illegible]　●後藤新平君
- 先帝侍醫大學教授　●エ、ベルツ君
- 醫學士　●中野勇吉君
- 文部視學官　●寺田勇作君
- 醫學士　●寺田織尾君
- 醫學士　●寺[illegible]興卯君
- 子爵　●秋元興朝君
- 前軍醫總監　●足立寛君
- ドクトル　●新井古芳君
- ドクトル　●富士川游君
- 高崎醫會長　土谷余次君
- 産科婦人科　●水原漸君
- ドクトル　●久保田政歷君
- 醫學博士　●佐々木政吉君
- 醫學士　●淺山[illegible]決君
- 醫學博士　●朝倉文三君
- ドクトル　●朝山茂六君
- 醫學博士　吾妻勝剛君
- 醫學博士　●佐藤三吉君
- 醫學士　●櫻井郁二郎君
- ドクトル　佐伯理一郎君
- 醫學博士　●[illegible]保二郎君
- 醫學博士　●[illegible]原[illegible]郎君
- 醫學士　●佐[illegible]得瑞君
- 醫學博士　●隈井恆次郎君
- 醫學博士　●桐淵發次君
- 醫學士　●北村精造君
- 醫學博士　●北島多一君
- ドクトル　●北川乙二郎君
- 醫學博士　●木下正中君
- 醫學士　●北島小大郎君
- 醫學博士　●北里柴三郎君
- 醫學博士　●三浦守治君
- 醫學博士　●三浦謹之助君
- 小兒科專門　●宮本仲君
- 理學博士　●箕作佳吉君
- 醫學博士　●三島通良君
- 醫學博士　●三宅秀君
- 伯爵　三浦信太郎君
- 醫學士　土方久元君
- 醫學士　●島村俊一君
- 醫學博士　●弘田長君
- ドクトル　●日高[illegible]昂君
- ドクトル　●須田卓[illegible]君
- 醫學士　●[illegible]川[illegible]德君
- 醫學博士　●木村德衛君
- 醫學博士　●森林太郎君
- 醫學士　●[illegible]川三男三君
- 醫學士　●波多野[illegible]君
- 醫學博士　●呉秀三君
- ミス　●リッデル
- ミス　●ヒユース
- ミセツス　●コーツ
- ドクトル　●菊池常一君
- 醫學士　●橋本左武郎君
- 醫學士　●鳥居春洋君
- ドクトル　●土田卯三郎君
- ドクトル　●佐藤迪知君
- ドクトル　●四山信光君



古代庸醫藥を賣るの圖　スチーン畫　（和蘭アムステルダム府リークス博物館藏）

講演

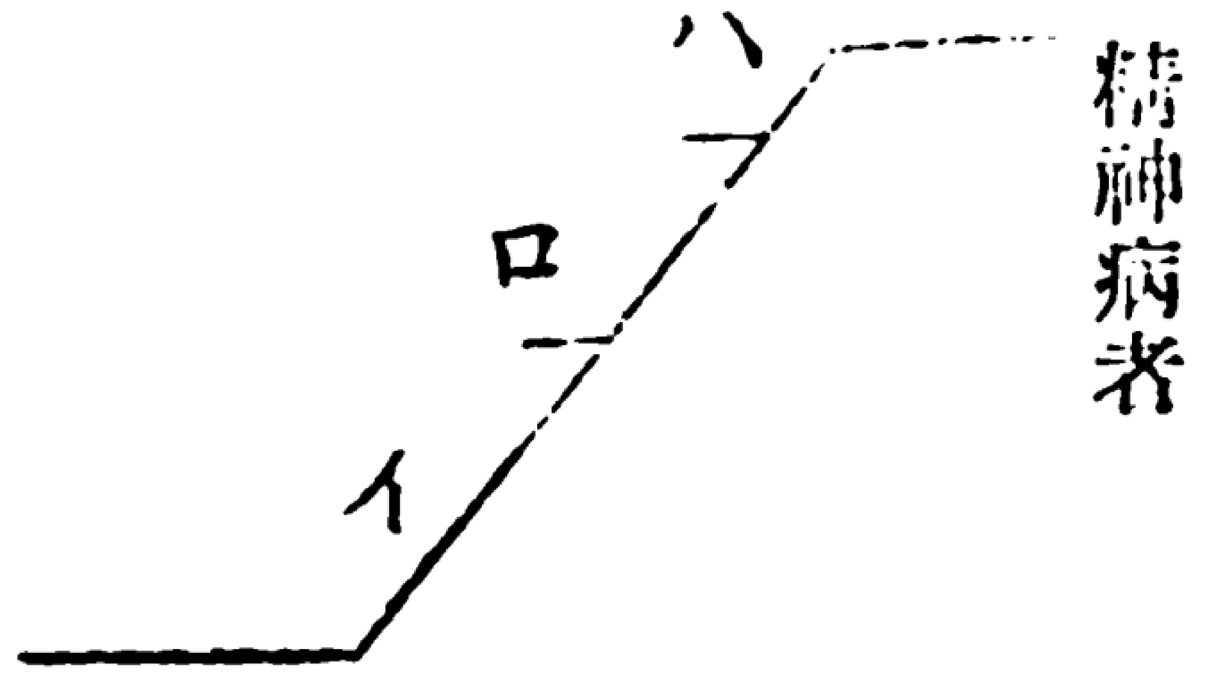
女子精神衛生

醫學博士　榊保三郎君

只今富士川ドクトルの御演説で皆様が嘸かし美人にお成であらうと考へる、お若い力などは是から先き結婚の申込が斷り切れないと云ふ姿にお成になると考へます、併し茲に絶世の美人が出來てどこへ行ましても耻しくないお嫁さんが出來ましても性質が惡いと云ふやうでは直に三行半になりますので、それで其方を私が富士川ドクトルの後を繼いで申上げやうと思ひます

性が惡いとか性質が惡いとか云ふ生來さう云ふ人々は吾々の方の専門から見ますと多少狂氣……と云ふと俗の言葉でありますが精神病者の方へ似寄つて居る性質であります、例へば生來小供の時から嘘を吐くとか、嘘が上手であるとか、他人の物を學校で取る、幾ら先生に叱られてもどうも直らぬ、と云ふのは最早餘程進んだところの人間でありまして、其邊から段々推して見ますと今の罪人などは先づ精神病者の中へ入つて居る學者が多いのでありまして、究り原因なくして人を殺し又た甚だ少なる原因で人を傷け或は人を殺しても物を取りたいと云ふまでになるのは、吾々共専門から見ますと最早狂氣の中へ入れて宜いものと考へます、斯う云ふ風に論じて見ますと世の中には隨分一種の精神病に似寄つた性質が澤山ございます、それで吾々が惡徒であるとか性質が惡いとか云ふのは大いに其邊に注目しなければならぬ、精神病と常人との間には種々の移變がありますので圖にかいて見れば

茲に普通の極く中庸の人間か在る、茲に精神病者が
ある



（イ）は精神の疲れ易き
即ち所謂神經の弱き人
（ロ）は甚だ極端に走り易き
人
（ハ）は最早多少精神病者に
存在する智力及び道德
上に缺點のある人
中庸の人

此間には非常な移行があつて恰も九段坂の如く一種の坂になつて居ります、之を三つに別けてお話をすると（イ）の邊はどうも精神が弱い、少し勉强すると頭痛がする、試驗前などには堪られぬ人がある、即ち神經が弱い人々、併し此邊は先づ通常の人に近い方であります、無論これが狂氣の中へ入つたならば癲狂院が繁昌して困りますが、此（ロ）の邊は非常な癇癪である極端に走り易き人、例へば人に惡口を言はれて此方も間拔とか馬鹿とか言返へせば事が濟むのを行ていきなりぽかりとやる、（ハ）の邊は己の惡口を言て怪からぬと庖丁を持て來てずぼりとやる、此邊は刑法の犯罪者であります、惡口を言つた者を毆ると牢に入る、此處は死刑にならなければならぬ、次に精神病者となると何も言はないのにいきなり人を殺すと云ふやうなもの、此は金箔付の狂人であります、斯う云ふやうに種々の移行がありまして人間の惡い方の性質が種々の階級に分れて居ります、さう云ふ人間が此世の中に澤山有る以上は吾々共此精神病に專門に從事して居る者は力を盡して衛生を普及せしめねばなるまいと考へて居ります、これは必要の事でございますので今日皆樣の前に多少其意見を申上げやうと思ひます

今日の題は女子の精神衛生と申しますが、女子が一の家庭に對して大勢力あり又子孫に向つて大影響のあることは無論皆樣の御承知のことゝ思ひます、私が今日お話申すことは精神衛生の全班と云ても宜い

のて、たゞ女子と云ふ字を婦人衛生會てございますから附加へただけであります、併し注意して婦人方に最も近接したことを申上げやうと思ひます

扨社會の難物たる精神病者となつてしまへばこれは取扱ひ易い、直に瘋狂院へ入院せしめ治療をする、癒らなければ一生入れて置くと云ふ方法も付いて居りますが、此中以上の活動の昂まつた人間がなかなか多い、それが非常に社會へ對して惡い事を致す以上はどうかして之を撲滅しなければならない、撲滅の方法はこれは極く些細なる日常の生活から段々積上げて行かなければ到底重大なる問題の結果を現はすことは出來ませぬ、茲に於て私は精神衛生と云ふことを

生殖の精神衛生（妊娠の精神衛生 分娩の精神衛生）
乳兒の衛生
小兒の衛生
精神の發達衛生
教育の衛生
最早十五六歳になりまして人心の付いた色情の衛生

次に高等中學に入つて或は諸學校へ入つて卒業することになつて職業に就く、次にお嫁さんを娶て元の通りに復りますから人間の生活はこれで悉く現はし得るものと思ひます、併ながら私が今日之を皆申すと富士川ドクトルの言はれた事と反して皆様がお腹が空て干物にお成りですから其中の著しい部分だけを申上げます

私は四年前に此會に於て聟の選方即ちお若い御婦人方は聟を選ばなければならぬ如何にして選んだら宜いかと云ふことを一應申上げました、併し最早四年前のことでございまして嘸かしお忘れになつたと思ひますし、又申上げる續きもございますから其邊から先づ繰返してもう一應簡單に申上げます、聟選みの法と申しますと大層大きくなりますが聟を選むに付きましては先づ普通に、互に相愛する戀と云ふことに先づ重きを置かれると考へます、次に財産の程

度身分の程度──金持の所へ誰でも行きたい金持からお嫁を取りたいと云ふは通例のことで、これが社會上に最も行はれるところの方法でありまして、若い時代に於ては多くは愛戀並に富と云ふやうなことに目が眩みまして精神の衛生と云ふことを忘れる者が澤山有ります

玆に一の精神病の定則として申上げる事は遺傳であります、古來申します通り蛙には蛙の子が出來犬には犬の子が出來る、精神の餘り確かりして居らぬ所の家族には精神病者を生じて困ると云ふことは定理であります、それに世界の人傑或は極くえらいと云ふやうな人は、さう申しては反對があらうと思ひますが普通以上の人でありて、さう云ふ人の後には往々にして馬鹿を生じ或は精神病者を生ずることがあります、極くえらい人──吾々の普通の知識に於て考へられざる所の事業を爲す人は一種の變質をして居る者と吾々の方では言て居ります、今遺傳と申しますのは變質者と云ふとも其中に含んで居ります、私はえらい人に生れないのは幸と思つて自分で滿足して居ります、精神病者の家には、精神病者が多いと云ふとは定つたる規則でありますが、健全なる所の家族からして或一の中毒例へば飲酒家の小供には精神病者癲癇白痴などが出來るとがある、吾々が飲まずとも宜い酒を澤山飲で神經系統の冒されることは莫大であります、其他に「オピユーム」即ち阿片の中毒に罹つた者の親族にも精神病者を生ずることが多い、次に身體の極く弱い人例へば結核の如き病氣の子孫にも往々にして神經の鋭い者又は極くヒステリー性の者が生ずることがある、殆ど慢性で身體を弱らせるところの兩親から出來た小供は身體の弱いのみならず精神も弱いと云ふことは吾々の方で定說と見做して居ります、さうすると精神病者乃至性質の變つた者──變質者さう云ふ者は種々の原因から成立得ると云ふことが明かになつて參ります、そこに於て初て今日申上げる第一の問題たる撰みと云ふことが必要になつて來る、折角お嫁にお出になつ

ても其の小供が皆惡いか又たは身體も精神も弱いか小供が出來た日には不幸の最も大なるものと思ひます、此事は四年前に申上げましたから極く要用の所だけ申上げまして次に花嫁時代の衛生に移ります聟を選むにはどうしたら宜いかと云ふと成べく探偵でもお使ひになりましてお聟さんの所をお探りになる、其親族に於て或は其の遠き祖先に於て精神病者があつたかないか、或は非常なる變質者がなかつたか、恐しい怒つぽい人でないか或は飲酒家でないか、癲癇病はなかつたか、癲癇はたゞ人の前で倒れるばかりが病氣でないあれから恐しい精神病を發します、また癲癇病者の小供等は高度の白痴者を出すことが多い、これ等の點をお探りになつて何も無いと云へば今度はお聟さんがどうであると云ふ問題に移る、若し祖先に於て何か一つ見出したならばあすこへ行きたいがマア止さうと云ふお考にならなければならぬ、今度お聟自身はどうであるかと云ふと先づ身體はどうであるか、健康なる身體に健康なる精神が宿ると云ふことを古來希臘時代から言て居る、次に性質がどうである、恐しく怒り易くないか又は極く我儘でないか小膽者であるか、酒を澤山飲まないか、酒を飮むのは經濟上のみならず身體に害を及ぼしますから、先づ聟さんを選む時には最も大きな條件としてお考へになつて宜い

次に聟さんの性質と自分の性質と同じやうな性質であるかないか、恐しい勝氣で怒つぽい者二人が夫婦になつた日には迚も治まりませぬ、治らないのみならず子孫に於て兩方の父母から受けた怒つぽい所が倍になつて其性質によく似た小供が出來ます、それでありますから性質の極く異つたる片方が氣が短ければ片方が氣が長いと云ふ風に極く反對の性質の夫婦が出來ると云ふと、其小供は兩方から良い所が二分の一になりまして中庸のものが出來る、さう數學的に小供が出來るものでありますまいが是は大いに出來得べき事であります

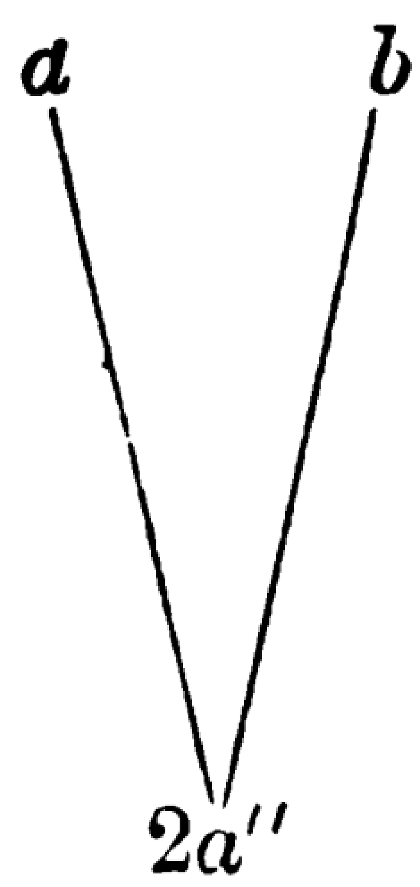
もう一つ申上げることは血族の結婚であります、血

族の結婚は古は隨分高貴の方にも有りましたし、まれ古來互によく性質を知て居るから彼と彼と配すと云ふやうな御兩親が極めて成立つた例は澤山聞いて居りますが、當時の民法に於ては血族の結婚は成べく遠去けるやうに禁じてあるこれは良い事であります、血族の結婚がなぜ惡いかと云ふと血族は同じ子孫から出て居りますので、それが極く健全なる祖先なれば差支ない話でございますが、精神病の原因と申します遺傳に於ては種々に物が混つて居りますから、多くの祖先は既に多少遺傳を持て居るものと考へます

b　嫁

a　聟

a の原因と b の原因と異つて居る以上は多少原因があつた所がさう甚いことはございませぬが、即ち片方が怒つぽい所へ片方の氣の長い所が平均して子孫が平均するやうになりますから差支ないが、若も a なる者と b なる者と結婚する場合に於て兩方で同じ原因を受けて居りますれば其子孫は a b と同じものが出來る



斯う云ふのを集合遺傳と申して恐しいのであります、それでありますから血族結婚と云ふことは吾々の方では重きを置て居ります、私は先年北海道へアイヌ人種の精神病を取調に參りました時にアイヌは古のやうに血族結婚をやつて居る、それ故に極く僅の人口中に僅の日子で調べたに拘はらず十四五名の精神病並に神經病者を發見致しました、其村は僅に二三百戶しかない處でございましたがアイヌ人種は一向構はず血族結婚をして居りますから段々に人口は減り變質した者が澤山出來て、終に人種の競爭上日本人に逐はれて北海道の北に今滅亡せんとする所であります、さう云ふ情態でありますから血族の結婚は非常に注意して成べく遠い處に緣を求めなけれ

ばならぬと云ふことが重大なる聟選の方法としてであります

今の條件を除きました以上はお若い方は御勝手になさいませ、愛戀であらうが縁であらうがそれは吾々の干渉する所でございませぬ、身體が健康に精神の確なお聟さんで位が高くて金持であると云ふのは最も吾々が贊成する所であります

先づ今申した條件によつてお聟さんが出來たとすると、次が、花嫁の衞生であります、嫁と云ふものは結婚の當時に於ては諸方から鎗玉に上げられて耻しいのと嬉しいのと非常に頭を使ふものであります、併し嫁と云ふものは如何なる義務があるかと云ふことは諸君は既に御承知のことでありまして、何故に結婚をするかと云ふに是から後子孫を造るのである、と云ふことは生物學の基礎であります、詰り嫁さん自分は年を取るが自分の身から分れた子供が出來るの時代は生殖を始める時である、其方法は貴婦人の前で甚だ說明し難いことで成べく羅甸語を使ひたいと思ひますが夫婦の交りであります、其交りと云ふことは必要なる條件でありまして人間一人が茲に出來るのであります、それであるから花嫁の時代は非常に其點に注意をしなければならぬ、所が斯う云ふ實驗があります、極く下等動物を以て吾々が實驗を致したのに男子の方の精蟲と女子の方の精蟲を合して試驗を致しますと、非常に健全なる場合に於ては其繁殖が正しうございますが、それを極く稀薄なるアルコール一萬倍乃至一萬五千倍に薄めたアルコールの中へ入れますと、初は生きて居て繁殖を致しますが其繁殖の仕方が不正になつて參ります、これはワイスマンと云ふ遺傳のことを大變に調べた人が其門下に於て實際研究した事柄であつて、それで人間が酒を飮むと醉ふばかりでなく一定の分量が身體に入りますと多少脂肪が膨脹し顏が赤くなり精神が爽かになり動悸がして來る、と云ふのはアルコールの――酒の利目であります、極く僅の酒を飮でも身體の中へ血の中へ入つて廻るものでありますから、夫婦

の交りをする其時に於て何方でも夫なり妻なりが酒を飲みつゝ其機能を行ふと云ふ場合に於ては、其精蟲又は人卵の何れかが多少なりとも其のアルコールの働を受けなければならぬ、さう致しますと下等動物で實驗致した如く肝腎なるところの單純なる胎生(まだ胎兒にならないもの)其のものが、既に卵なり精蟲なりの何れかがそれを受けて居る以上は異常の發育をするのであります、假令異常の發育を爲さずとも最早精蟲なり卵なりが一定の毒によつて弱くなつて居る、さう致しますれば子孫に於て弱いところの小供が出來ると云ふことは確であります、花聟花嫁は之を鑑みなければならぬ、詰り夫婦の義務と云ふものはさう云ふ毒(アルコール)又はオピユームと云ふやうな毒のない時に實行すると云ふことが必要の條件である、翻つて大酒家の子孫に於て馬鹿、癲癇病、精神病者、變質者、と云ふやうな者が大變に多いと云ふ所から考へましても、アルコールの子孫に對する所の惡勢力は著しいものであります

次に申上げますことは身體の極く弱い情態に於て夫婦になり又は其義務を實行すると云ふ場合に於ては最も戒むべき事であります、今申した通り身體の一部分なるところの卵又は精蟲なりともアルコールによらず他の中毒によらずとも、身體の弱い時に於ては矢張りそれだけの弱味を持て居ります、殊に萎黄病であるとか――それは日本には少うございますが外國などに於て十五六乃至十八九――もう少し前から起る場合もありますが丁度初月花の出る時又たは女の盛りの時に蒼白にまるで血の氣のないやうになつてしまふ、其患者を見ますと蠟細工で拵へた人形のやうに赤つ氣のない透通るやうに綺麗に青くなる病氣であります、さう云ふ風の萎黄病及び結核其他總て身體を弱らせる所の病氣に罹つて居る際は成べく小供の出來ないやうにしなければならぬ、それは母子兩方の爲めであります若も拵へた場合に於ては其小供は大變に弱いものが出來る、其他に斯う云ふ事は甚だ申上惡い話でありますが醫者の方で必要

の事件でありますから失禮の段は御容赦を願ひたい、それは黴毒であります、黴毒は多くは男子が一定の處から傳染をして自分が惱むのみならず其病氣は延いて子孫に及ぶのであります、家庭の秘密でございますから夫婦になつた後に亭主なり又は妻なりが、多くは亭主でありますす其が他傳染して參りましてそれを妻にうつすことがある、それが大變に恐しいのであります、其時に出來たところの小供は最早胎內に於て既に黴毒に罹つて居ります、其黴毒に罹つた小供は生れてからどうなるかと云ふとこれは的面に現はれる不具者であります——畸形兒を多く生ずる、手がなかつたり鼻がなかつたり甚しきは頭がすつかり無いのがあります、故に他より傳染した場合さう云ふ事實が判つたならば成べく其際に於ては小供を拵へないと云ふことは必要の條件であります

次に癲癇でありますが夫なり妻が其病を持ていて不幸にして夫婦になつた以上は成べく子孫に遺傳をしないやうにしなければならぬ、癲癇と申します病氣は身體の中に一の毒が蓄積して其毒が腦に一度に働きますからあゝ云ふ痙攣を起すのであります、さう云ふ病氣の時に於ては嚴禁して夫婦間の交りを絕なければならぬ、其小供には殆ど十中の八九までは白痴者を生ずるのであります

まだ一つ殘つて居りますのはマラリアの如き傳染病であります、すべて傳染病と云ふものは一定の、黴菌によつて生ずるのでありますから、さう云ふ病氣の際に於て萬が一小供が出來る場合があつたならば其小供は大變に弱いのであります、故に其病氣が終るまで即ち醫師が健全と認るまでは生殖を實行する事はない方が宜いのであります

前の病毒の所で茶と煙草のことを申落しましたから差加へて置きます、人間は惡い習慣があるそれは茶と煙草であります、茶の方はさう大したところの害はありませぬけれども煙草を澤山喫む人は中毒を起すのであります、それであるから成べく家內安全なるとこ

ろの夫婦を形造りファミリーを形造らうと思つたならば、凡てさう云ふ毒になる物は避けなければならぬ、自分――嫁さんがしないのみならず聟さんにもさう云ふ事をさせてはならない、段々嚴めさせるやうにしなければならぬ此所に夫婦と申上たるは即ち前申述たる聟選の方法にて結婚したる學問の理想の夫婦でございまして一も精神病の遺傳を有せざる精神健全の夫婦でございます然し若し未だ前述の選法に依らざりし夫婦なれば遺傳の明に存して居る場合には子供を作ると言ふ事は餘程考へ物です然し私は此所夫婦に向て夫婦の交を禁ずる様な惨酷は申すのではありません只だ恐ろしき遺傳に對し子供を作る事の熟考を乞ふのみです若し止むを得ず子供が出來せば其の子供の教育法は後述の法にて教育しなければなりません次に若し夫婦間に精神病か又たは神經病者を生じたる時は之れは其の病の治する迄は必ず子供を作る事を禁しなければならぬ

段々申せば數限りのなき種々の條件が有りますが、要するに生殖と云ふことは身體の弱つた場合、及び身體の毒物によつて生じたところの疾病のあつた場合を除いた外は差支ないのであります、それで嫁さん時代に最も必要なる條件だけを掻摘んで申上げました

あとは妊娠中の衛生でありますが此位に止めて何れまた雜誌なりて發表を致します、極く必要なる事でありますからその時は御一讀下さることを希望致します

叢談

流行性感冒（インフルエンザ）の話

醫學士　河野衛君

昨年の暮から本年にかけてインフルエンザは中々

勢よく流行しまして近年稀なる大流行でありました皆樣の中にも定めて此病に御罹りになつた方が多い事であらうと思ふのであります是から少しく本病の御話しを致しましよう

流行性感冒が始めて日本に來ましたのは一千八百九十年即ち明治二十二三年の交でありまして此時に大流行があつたです其後チョイチョイに流行は度々あつたのですけれ共昨年末から本年にかけての流行は明治二十三年の大流行に續いての流行であるといふ事であります

本病は一國内で例へば東京なら東京で流行する事があるやうに全世界に流行する事があるのです丁度西暦一千八百八十九年に西比利亞の一地方から起りまして世界に廣まつた事があつたですそうして數年の間方々で流行したのです即ち一千八百九十一年から一千八百九十二年にかけて英國及び米國で大流行があり歐羅巴北米に渉りて流行しましたそうして全世界に廣まる時には極めて急劇に多數の人が侵され死亡する者も多くてまた急に流行は止み氣候風土老幼身分等の差別なく侵して來ますけれ共國内流行の時分には左程急劇に多數の人が一時にやられるといふ事なく流行の止むのも漸々であつて死亡する者の數も左程多からず季節と關係がありまして夏には無くなるのです死亡數は極めて少く、千人に就きて一人といふ事であります

インフルエンザの原因

は何であるかといふに昔から種々に考へられたのであります前に申上げた樣に本病の流行が始まると極めて急劇に多くの人が侵される而かも同じ時に甲の人も乙の人もやられるといふ風であつて一家族殆んど此病に襲はれる事もあり且つ世界中に蔓延した場合抔では一層急速に大多數の病者を顯はすものですから以前多くの人の考へた所に依るとマア一種瘴癘の氣とでも申しますかつまり空氣中に何か分らぬけれ共病毒が何所にもあるそれ故同時に多數の人が侵されるのであると斯樣に考へた事もあつたのであり

ます兎に角一種の接觸傳染病でありまして患者と交通したり又は患者の用ひた物品等に觸れると本病に罹る乃至甲の病者の所に乙といふ人が行いて其病毒を受けてそうして丙の家に行くとしまする丙は茲にインフルエンザに罹るといふ鹽梅で以て次第に蔓延するのでありましてつまり中間の人に依りて病毒傳播の媒介をする事があるといふ事は多くの人の信じて居る事でありまず、所が一千八百九十二年にバイフエルといふ人が一種のバチルスを發見しまして本病の原因であるといふ事も證明したのであります其バチルスは鼻の中とそれから痰の中に居るのでありますそれ故インフルエンザの原因をなすものはバイフエル氏のインフルエンザ菌であるのでありま す、此バチルスは初め咽喉に生活して茲で其有毒物質を産出しまして其毒が全身に及ぶのであります、そうして

インフルエンザの徴候

はどんなものであるかといふに前に申し上げた通り本病は一種のバチルスに依りて起る傳染病でありまして極めて多樣なる徴候を具へて居ります先づ最初には何となく身體が疲勞したやうな感じがして力無く頭がぼんやりし食物の味が惡しく食欲が減じて來て時々寒む氣がしたり目眩が起つたり少しの熱が顯はれ或は頭が重く頭痛がしたり嘔氣を催す事もありますそれから腰に劇しい疼みが來まして方々の關節や筋肉抔に痛みを覺えて來る事も隨分多いのでありますそうなつて參りまする氣分が大變に惡しく仕事も出來なくなります斯樣な徴候を名けて前驅症狀と申します此前驅症狀は一二日位續くのでありまして次に眞の病の徴候を發起して來ます或時は前驅症狀無くして急劇に病の眞の徴候の表はれる事もあります、それで眞の徴候と申しますと前に申しました前驅期が兩三日續いた後急に三十九度から四十度といふ高熱を起しまして此時は惡寒戰慄と申しまして非常に寒む氣が起り身體がぶる〳〵とふるへ出し間もなく高熱が出て來るのでありますそうして頭痛が

したり方々の神經の痛み腰の痛み等が隨分烈しいてすそれから身體は衰へ〳〵力無く精神は朦朧として目眩耳鳴動悸が烈しくその爲め夜分安眠が出來なくなり或は反對に非常に眠たくなる事もあります小供抔はひきつけを起す事もあり或は精神病者を見た樣に非常に擾ぐ者もありますそれから鼻汁が出てたり咳嗽を發し痰を出して來て中々重體となつて來ます、インフルエンザの徵候と申しますとざつと先づ前に申し上げた樣なものでありますけれ共元來インフルエンザには種々の區別がありまして從て徵候も少々づゝ趣を異にして居りますから次にそれをザツと申し述べます

(一)加多兒性のインフルエンザ是れが最も多いのです主に鼻咽喉氣管等に急性炎症を起すものです此場合には鼻が塞がつたり鼻汁が分泌されたり又は乾燥したやうな氣味がしたりくしやみをしたり痛みがあつたりします次に眼の結膜が腫れて赤くなりまして淚が出て來るそれから耳鳴が來たり或は耳が遠くなり氣管が侵されると主に痰と咳が出て或は聲がかれたり咽喉が乾燥した樣な感じがあつたり或は輕い痛みを起し又は痒い氣味が起つて來て誠に不愉快であります此場合にも固より頭痛があつて頭の前の方或は後或は頭全體に痛みがあります次に

(二)神經性のインフルエンザ

といふのがあります是れは主に神經が侵されるのです凡てインフルエンザの時は最初神經系統に病毒が働くやうです先づ劇しい頭痛が起りまして腰の痛みが強く方々の關節に痛みを覺え神經痛と謂つて方々の神經の經路に沿ふて刺すやうな痛みが來ますそうして固より全身がだるく夜分眠る事も出來ずに苦しむものです此時には熱の少しある事もあり又全く熱の出ぬ事もあるのですそれから

(三)純粹の中毒性のインフルエンザ

といふのもあります此れは熱もあり頭痛も起り精神がぼんやりとしまして食慾も非常に減退しまして全身の具合が非常に惡い充分に口も利かず一見重症に

見えます丁度腸窒扶斯の初めては無いかと思はれる位ですそれから

（四）主に胃と腸を侵すインフルエンザ

といふのがあります是れは主に胃と腸が侵されるのですから食慾も缺損し嘔氣を催し又は下痢したり食物を全く取る事が出來ないのですそして固より腹が痛みます反對に大便の通じの悪しくなる事即ち便秘を來す事もあります食物を食べても味が悪しく舌を見ますと白くなつて居ります

斯様に種々の區別が立てゝありますけれ共固より此間に判然とした區劃のあるものではなくして種々なる徴候が集まつて顯はれて參りますそれて

インフルエンザの時の熱

の具合はどうであるかといふにインフルエンザの熱は多くは永く續かぬものであります大抵二三日或は四五日て熱度は三十九度から四十度又は稀に四十度以上となる事もありますそして急に熱は去るものてす或は二週間も稀には熱の續く事もあります又或場合には全く熱の無い事もあります

インフルエンザと普通の感冒とは何處が違ふか

と申しますと種々ありますけれ共先づインフルエンザでは多くは熱が急劇に昇り身體の疲勞が殊に甚しくて且つ永く續くのとそれから神經の侵される事がひどいのてす

インフルエンザは恐るべき病

であるかどうであるかといふに固より此れは恐るべき病であります殊に小兒は危險てす又弱い人とか老人杯のインフルエンザは中々危險てすインフルエンザは續發病及併發病と謂つて色々な他の病氣を引き起す病てすから此併發症なり續發症なりが最も恐しいのてすそれは獨りインフルエンザに限らず他の急性熱病にもある事てす其併發病といふのは中々數が多いのでありますが最も屡々吾々の遭遇しますのは肺炎といふ恐るべき病てすそれから肋膜炎と謂つて肺臓を包んで居る所の嚢の病氣てす此の併發症の爲

めに死する事が中々多いのですそれから腦膜炎も起つて來ます是れは併發症といつて病の經過中に來るのでありますが續發症といつて

インフルエンザの治つた後に來る疾病

が亦隨分數が多いですインフルエンザが全く治りましても永い間神經の障害が續きます即ち永く記憶が惡しくぼんやりとしてめまいがしたり動悸が烈しかつたり又は睡眠が充分出來ず夢を多く見たり或者は丸て精神病者のやうになるのもありますインフルエンザの後には能く神經衰弱といふ病に罹り易くなりまして頭がぼんやりして書物を讀んでも一向纏まりが附かず仕事に倦き易くなり注意力を一方に集中する事が出來なくなりますそれから吾々の最も恐れますのは中耳炎でありますインフルエンザをやつた後は能く中耳炎に罹ります此時は誠に劇しい耳の痛みが起りまして腦の方に進みますと腦膜炎を起して死にます此中耳炎は極めて恐ろしい耳の中の病であるのであります或は腎臟の病肺病ヒステリー等を引き起す事もあります斯くの如くに併發續發の病氣が多うありますからしてインフルエンザは極めて恐ろしい流行病であります昔から

風は四百四病の源

であると謂つて非常に風を恐れたものでありますが實にその通りで普通の風といふ中には種々の恐るべき病が潜んで居たり或は重き病の初期である事は隨分多いのでありますその通りインフルエンザも

色々の病氣の基

となるものでありますから能く注意を拂はなければなりませぬ殊に小兒は肺炎を起したり腦膜炎を起したり肋膜炎等其他種々なる病を惹き起します或は肺結核を起して來る事もあるのです

インフルエンザといふ病は先づザット上に述べた樣な病でありますが其經過は種々でありまして早いのは三日長く續いて三週日位で大抵治るものでありますけれ共併發病が加はつて來ます樣な事でもあれば固より永くかゝります

インフルエンザは上に述べた通り傳染病であつて中々廣く流行する病てありますそれて

豫防法

といふのが最も大切であるのであります凡て何病に限らず豫防に心掛くるといふ事は極めて肝要な事てあります是れは病の流行時に注意するのみて無く平素から其心掛けて居らなければ效能は無いのです即ち不斷から衞生を守る攝生を重んずるといふに歸着するのでありまして文明といひ開化と申しましても社會の人々に衞生の思想が乏しかつたら決して開明進歩と申す事は出來ない事であると信じます

インフルエンザに侵されぬやうにするには平素から身體を強健にする事に注意し生活を規則正しくし皮膚を強くするのは何より大切な要項てありまして皮膚は身體を包んで居るものてすから此皮膚が丈夫てあれば容易に病に罹るものてはありませぬそれには隨分色々な方法が御座いまして例へば出來る丈け厚衣をせぬといふやうな事も必要てありますけれ共何人にも實行する事が出來て最も簡便てそして時間の掛らぬ方法と思はれるのは私は

冷水摩擦法

てあらうと思ひます是れは實行するには苦心も何も入らぬ事てありまして西洋手拭に水—始めは湯でも宜しいです或は微溫湯でもよいです之を手拭に浸し堅く搾りまして身體手足悉く丁寧に拭ひまして皮膚が赤くなる迄擦るのです時間は僅か十五分間か二十分も掛れば濟みます慣るゝに從つて時間も早くて濟むやうになります是れは風の當らない所なら何處て行つても宜しいのでありまして朝でも晩でも任意てあつて之を毎日一回續けますと中々其效能は大したものでありまして單に風を引かない樣になるばかりては無く身體は强壯となり食慾が進み血の循環が佳良になりますから少し位の頭痛杯はとれて了ひますそれから精神が爽快となり中々愉快なものてあります、のみならず毎日缺かさない樣に之を勵行するといふ事は克己心を養ふ事ともなりまして吾々が精

神を修養して行くといふ上に於きましても偉大なる影響を及ぼすものであると確信します皮膚を冷水で以て擦りますと血行を旺盛にし神經を刺戟し全身の新陳代謝機能が高まつて來ます其皮膚に及ぼす關係の委しい事は玆に省きまして何れ後日詳説する機會がある事と考へます、兎に角冷水摩擦といふ事は皮膚を強くし身體が極めて強壯になりまして外部から働く毒に對し抵抗力が強くなりますからして種々な病を防ぐ事が出來る樣になれるのです次には可成病者に接しない樣に心掛け病人の用ひた品物咯痰抔は凡て嚴重に消毒をしまして病人は別室に隔離し妄に往來しない樣にし殊に小兒に氣を附け流行時には一切外出を禁じ殊に夜分は如何なる事があつても外に出してはなりませぬ大人も可成外出して外の寒い風に當らない樣殊に夜深くる迄遊戯に耽るとか集會に出るとかいふ事は一切禁じなくてはなりませぬそれから衣服の事でありますが餘り暖か過ぎるのはよく無いですその上度々着換へをする事それから厚衣をしたり急に薄衣に換へたり抔する事は體溫を保つ上に甚だ宜敷無い事でありますから何時も大抵厚さの具合を餘り變動させないのが宜しうあります

インフルエンザに罹つた時の手當

は如何にすればよいかと申しますに固より早く醫士の診察を受けて早く服藥するのですけれ共前に申上げた樣な徴候―頭痛惡寒腰の痛み身體の疲勞を覺へ精神不快發熱等の徴候の起つた時は先づ暖い床に就くのが第一でありまして一切の仕事を止めて食物は軟き飯粥牛乳其他凡て消化の良い品を撰み靜臥するのが何より大事ですそれから醫師の診察を受けて病症に應じた服藥をするのです凡て病の初めに攝生に注意すると否とは其病の經過の上に大なる影響を及ぼすものでありまして殊に熱病では極めて肝要であります御承知の通り腸窒扶斯といふ恐ろしい熱病があります此病は腸に病變を主に顯はす病でありますから殊に初期の攝養といふ事が非常なものでありまして初期に不攝生をした者はどうも經過が良くな

いてす即ち初め熱があつて風を引いたやうな氣持がするものですから早く醫者にも掛けずに不消化な物を食し寒い時に外出したり仕事をしたり杯する間に病はズン／＼と進みまして非常に重體となるのが多いですけれ共初めから攝生の行き屆いた者は極めて經過が宜しくて早く治に就くものであります

他人と妄に談話するのを禁じ一室に隔離し室内を溫暖に保ち溫き流動物を多量に飲んで床に就き醫治を受くるのが第一であります

凡て病を治すのは醫藥に依る事勿論の話でありますけれ共只だ藥ばかり飲んだのみで決して病は治癒するものではなくて其外に病者自身攝生に注意するといふ事とそれから看病法が充分に行き屆くといふ事と此の三つが具備して始めて病の治癒を望む事が出來るのでありますそれ故極く初め身體に不和を生じて來た時に直に注意し醫師の診察を受けるそれから醫師の云通の攝養を勵行するといふ順序が甘く實行されなければならぬ事でありますそれから本病の

回復期に於ける注意

は實に肝要であります熱も全く取れて頭痛其他の徴候が全く去つた時は回復期に入つたのでありますが此時期が最も大切であります此時に不攝生を致しますると病は元に歸りまして即ち再發しまして種々なる恐ろしい病氣を惹き起して來まして容易に治癒しないものでありますそれ故病は全く平癒したと思つても一週乃至十日間位は嚴重に身體の攝生に注意し床は離れても終始溫き室に籠り決して外出をせず充分に滋養食を取り病の再發しない樣心掛くる事が肝要であります回復期に注意を怠つた爲めに病が再發して前よりも重態に陷る事の多いのは常に吾々の見る所であります茲で又々腸窒扶斯の例を申しますが一體此腸窒扶斯は腸に病變を來すものでありますから始終流動食ばかり少量づゝを與へてあるのですから回復期に向ひますと非常に食物を欲しがる然し患者の望む通りに與へる事は出來ぬ、けれ共病人の方では空腹で堪らぬものですから頻りに食を欲する此

所が醫師看病人の最も注意すべき事であります此時固形の食物でも取つたならば折角治りかけた場所が又々壞される病は元に歸つて了ひます或處で窒扶斯回復期の病人が空腹に堪へ兼ねて亂暴を始め果は看病人を毆打し器物を破壞するといふやうな事があつたものですから詮方なく普通の食事を取らせた所が病は元に歸て二ヶ月も永く掛つて漸く平癒した事のあつたのを聞いて居ります此れは癒つたからよかつたですけれ共不幸の時は再發して死する事もあります斯樣に回復期の攝生といふ事は大切なものであるのです即ち病の初めに注意し醫治を受くる間は固よりの事回復期に於ては殊に身體を大切にし再發を防ぐ事に努力しなければなりませぬ折角初めには大事にしても終りに不注意であつては何の役にも立たないのであります終りをよくする完うするといふ事は此場合にも必要な事柄であります。

衛生思想の發達といふ事はつまり病は恐ろしいものである何々の病はどんな病であるといふ事が能く分つて居てそうして此れに對する心掛があつたらそれで充分であると信ずるのであります上に申述べた所で極めて簡單でありますけれ共インフルエンザに就きてザツと申上げたのであります。

衣服緊縮の弊

醫學士　渡邊房吉君

帶や紐で身體を強くしめるのは獨り肺を害して呼吸作用を妨げるばかりでなく、又種々の機關を傷ひ、やがては身體全部の害になるものであります。

(一) 心臓に及ぼす害

第一に害されるのは心臓の機能であります。心臓とは不隨意筋から出來て居る肉の袋の樣なもので、此世の中へ生れ落ちた時から死出の山路に旅立つ時まで、寸刻片時も休まないで血液の出入を司つて居る生活須要の機關であります。その處在部は左の胸廓の中で殆んど乳房の内側に當つて居ります。心臓

が血液を呑んだり吐いたりするのは丁度水が堰かれたり流れたりする樣なもので、其都度生ずる脈々たる血の波は血管を傳ふて全身に打ち寄せ、其際脈搏となつて之を觸れしむるものであります。此脈の最も觸れ易くて簡便な所が何人も御存じの腕關節のところの橈骨動脈で、心臟の機能の鈍いか強いか、大なるか小なるか、疲れてるか盛んなるかに由て、此脈の性質も色々に變り、其數も或は多く或は少くなるものであります。試に一時間程靜に平臥て居る時と、起き直つて端坐て居る時と、更に立上つて直立した時との脈搏の數を比較して見ますと、直立の姿勢を取るに從て漸次增して行くのを發見いたします。更に步行だして庭でも一周して來ますと脈搏の數と強さとは尙一層增進いたします。

服裝が心臟の機能に關係することに就てサーゼント敎授は澤山の處女達を取調べて見ましたが、弛緩な服裝をして聊かも身體を壓迫しなかつた日には一分間の脈搏數が平均八十四程でありました。次に一町餘りの距離を二三分の間に疾走させました所脈搏數が一分間百五十六迄に昇りました。此事實は弛緩な服裝が運動の結果にも影響することを示すものであります。氏は其翌日同じ少女達に緊く腰をしめさせて同距離の間同時間だけ同樣に疾走させましたが一分間の脈搏が百六十八迄になつたそうであります。これ確かに緊くしめられたがため心臟の機能が困難であつた證據であります。

露西亞の政府では兵士が『ヅボン』を留めるため強く腰を縮めると働きが鈍くなつて仕事が墓取らぬと云ふ事實から、帶で『ヅボン』を留めるのを禁じ、其代りに『ヅボン』緊帶を用ふべしとの法令を發布したことがあります。

(二)腎臟に及ぼす害

次に腎臟も衣服緊縮の害を蒙るものであります。腎臟とは身體の組織の中から最早や不用になつて榮養の資とならない惡液を分秘して尿となすものであります。故に一旦腎臟が病氣になればかゝる不用液の

排泄が不完全で、尿の分量も減じ、從て體內に惡液が鬱積して、一般の榮養が害されるとになります。此腎臟は肋骨の直下で背骨の兩側に在りますから、強く帶をしめて腹部から肋骨の部分をくゝりますれば、腎臟も共に壓縮せられて種々の病氣を惹き起すのは極めて見易い道理であります。墺太利亞の政府てはかゝる弊害を認めて一般の兵士に『ヅボン』を高く吊り上げて肋骨の下で強くしめるのは禁物である』と云ふ訓令を發したことがあります。

(三)肝臟に及ぼす害

胸廓と云ふ金城鐵壁で圍まれて居る心臟や肺でさへ、衣帶緊縮のためには害されると云ふならば、況して骨のかこひも無く只筋肉と云ふ壁一重を隔てゝゐる腹腔內の機關が害はれるのは無理もないことであります。腹腔のうちで最も大きな機關が、肝臟でありまして、横隔膜の直下に密着して大部分は身體の右側にあります。之が帶てしめられると全體が右側に壓しつけられるか、前方につき出されるか或は臍より下の方迄壓し下げられることがあります。かゝる肝臟の表面にはあり〳〵と肋骨の跡のつくことが多ひもので、殊に西洋の婦人は細腰の美人を希望してコルセットを以て蜂の如くにしめますから、肝臟にも其しめた跟跡が殘り、甚しき時は全く二ッに截れて仕舞ふことがあります。

有名な彫像師のハイラム、パワースと云ふ人が一日貴婦人の會へ出席するの機會を得て、多數の盛裝を凝らした美人達を見た時に、友達の一人が『いかに美しからずや』と問ひ掛けたのに答へて『我はむしろ美人等の肝臟が何處にあるやを怪むなり』と云ふたそうであります。パワースは彫像師として人體を研究したものでありますか、盛裝の觀が細腰の美よりも寧ろ內臟が其常位を變ずるのを氣遣ふたのであります。

(四)胃を壓迫す

胃は季肋部の部分にある食物消化に緊要な機關でありますが、これも衣帶緊縮のために或は左方に壓し

寄せられ或は下方に壓し下げらるゝものであります。人間の手で拵へた疎雜な機械でさへ其常位が變つては狂ひ勝ちで、その働きは兎角不完全なものであります。況して微妙と精巧とを極めて居る人體の機關が其常位から壓し出されても尚變りの無い譯はありません。諸道具が取散らしてあつては大工の仕事も捗取らず、机の上が亂雜では學問の習得も覺束ないものです。人體の生活機關が亂れては健康の損ぜらるゝも當然であります。

(五)腸及び女子生殖器を轉位せしむ

腸は昔から百尋と稱し來つたところのもので、所謂臟腑の大部分をなして居りますが、其長さは身長の數倍に餘り、流石に廣い腹腔內を所せましと占領して居ります。これも廣い帶を以て強く腹壁を壓縮する際には同じく位置を轉ずると云ふ運命に立ち到り、骨盤內にある子宮や卵巢も之に連れて所を變へ、遂には轉位したまゝ固定して種々の病氣の源となります。

(六)血液の循環を害す

衣帶緊縮の弊は上來數へ來つたもの許りでなく更に血液の循環を妨げることも夥しいものであります。凡て生活體の機關は充分なる血液の供給を仰がなければ又充分なる榮養を保つことの出來ないもので、榮養が不充分なれば其機能も不完全たるを免れぬものであります。故に何れの機關でも身體に附てゐる以上はみんな必要なものでありますから充分に血液の補給を仰ぐべきものであります。然るに衣帶で壓縮すれば其中へ流込むべき良い血量は少くなり、其中から流れ出づべき不良の血も停滯いたしますから、其機關は自と病氣を釀すやうになり、皮膚にある靜脈血が肺を通つて心臟へ還流ことも妨げられる樣になり、從て手足に浮腫を見るに至ります。「一匹狂へば千匹狂ふ」と云ふ諺がありますが、上記の如く或一機關の障礙が出來ますれば延いては全身の調和が破れる樣になります。「頭寒足熱」と云ふのは漢法醫時代からの根本原理でありますが、全身の血液循環

が妨げられると、却て「頭熱足寒」と云ふ反對の狀態に立ち到ります。何故かと云ふに足に達する血の量が不足勝ちて、頭の中に籠つてゐる血の流れ出すのが緩慢からであります。頭が熱すれば逆上、頭痛、眩暈、惡心等が來り、氣分は鬱して交際が嫌ひになり、睡眠が不充分で終日煩悶し、考へる力が鈍くなり物の判斷がつかぬ樣になります、足が冷へる時は血の氣がなくなり、一體に紫色となり、次で浮腫が加はり、或は痒く或は痛く、遂にその部分の腐る樣なことがあります。帶を强くしめる、衣服を緊く着けると云ふのは、寔に些細なことの樣ですが其惹き起す所の結果たるや實に恐るべきもので一身の幸不幸にも關するてはありませんか。

（七）外形の畸形と內臟の不具

人類の身體は或一定の釣合と調和とを保つて造られて居るもので、若し此釣合と調和とが亂れて居つたならばソレは不具畸形と云ふべきであります。世間の方々は跛足、駝背、失明、聾者等を見て不具畸形と稱しますが、何故足よりも背よりも目よりも耳よりも大事な重要な生活上無くてならない體內機械の轉位畸形を目して通常の事の如くに思ひ做すでありませうか、而かも自ら求めて內臟器を害ひ、全身の調和を破るに至りては誠に何の故たるかが解りません。

（八）服裝美と身體美と

成程我國の服裝で廣い帶をしめなかつたら隨分美觀を損ずることでありませう、然しながら健康を害ふ美觀は眞正の美觀ではなく、一身の調和を亂る服裝は野蠻人の服裝で、求めて身體髮膚を毀損するのは蠻人の營しむる所であります。

私共はお互に服裝美と身體美との二つを區別して美の標準を主として身體美の上に置き服裝美は其次に置きたいと思ひます。然るに一般の御婦人方は却て之を顚倒しては居られますまいか。支那の諺に「沐猴に冠りす」と云ふことがありますが、自然本來のまゝに發達しないで內臟に畸形がある身體に如何に

綺羅の裝ひを凝らしても、私共は之を美と云ふに躊躇するものであります。

(九)世界の蠻風と我國の陋習

或北方の蠻人は足のかゝとの上より膝の下迄を強く緊縮して其上部が肥大するのを見て美的だと稱し、或南方の國民は耳朶や鼻の中隔へ輪を通し之に種々の寶玉を垂れて美を誇稱して居ります。我國の婦人が之を以て蠻行だと一言し去るならば、私は我國婦人の服裝を以て更に蠻風であると云ひたいのであります、何故なれば足や耳朶を不具片輪にしたからとて生活機能に必要な機關を害ふ程の大害はないからであります。支那の婦人は足を緊縮しますが胸部と**腹部とを緊縮する我國及び歐羅巴の婦人は之を笑ふ**の資格を持て居らないものと思ひます。

身體の活潑は生活力の盛大なる標徴でありますが、我國の御婦人方が一般に不活潑なのは、軈て其廣帶長袖のためてはありますまいか。私は服裝改良の曉まで御婦人方の御注意を衣服緊縮の弊害に傾て貰ひたいと思ひます。殊に發育盛の少年少女を養育する上に於て一層の御注意を願ひたいのであります(完)

酒の利害

醫學士　竹中成憲君

昔は醫者の年始の四日としたるものにて、元日早々醫者が出はいりすると、今年は緣喜が惡いなどゝいうて、今でも御幣を擔ぐ者がある、然れども退て考へ見ると、元日に恐多くも宮中にまて醫者が罷出て、新年の賀を申上る次第であるゆへ、左程嫌はるゝ事もあるまい、去りながら、いつも衛生の話といふと、親の意見か、道德の話みたやうなもので、面白といふ事はない、かゝるゆへに元日早々衛生の話をするてう事は少しく考へものであるが、新年に酒のない家はなし、その酒に就ていふのであるから、あまり差支はなからうかと思ふ。

▲酒の害

此害は勿論何人も之を承知して居るところて、之を分拆すると

第一　社會に及ぼす害

是は犯罪の統計表を見ても直に寒心する、

第二　精神に及ぼす害

是も統計の結果御尤である、

第三　肉體に及ぼす害

是も勿論の事て、飲酒過度は精神にも異狀を起すと同時に內臟にて之が害を蒙るは肝臟を以て第一とす、

然れども是、強き酒類を常用するに據て起るものにして日本酒位の強さのものを適度に用ゆるは敢て害となる事なし、

現今の醫科の大家ても片山先生の如きは大の禁酒家て熱心に其身體に及ぼすところの害を說かる、實に御尤なる事にして、社會に對し一大善事たるには相違なきも「噫難哉」と云はざるべからずと思はれる、

酒の害を論ずるに先ち定むべき事がある、予は酒を善酒と惡酒とに區別したい

善酒とは上等なる日本酒をいふ

惡酒とは下等なる日本酒及び強酒をいふ

惡酒とは日本酒より強きものにして燒酎、泡盛、ブランデー（コンニアック）、ヂン、ラム、ウキスキーの類をいふ

二三の分拆例を擧げて見ると「アルコホール」含量は左の通てある

日本酒は分中に百	一二
味淋	一三
赤葡萄酒	八
ポルト酒	一六
泡盛	四一
ブランデー	五五
麥酒は弱きものにて	四

故に麥酒三合は日本酒一合に當る

予は日本酒程、害の少いものはないと思ふ前夜人事不省位迄過飮したるものゝ二日醉せざるにはあらざる

も、洋酒の爲に同一程度に陷りたるものに比して遙に、其恢復速なり。

越後の村松は昔より多く酒を飲む所であるが、敢て該地方に肝臓病が多い事はない、同藩で殿様が宴席で下に下さる酒杯は之を投ずるも破損せぬ樣、籠で造て紙ではつたものである、一杯五合以上も入るといふ。

佐渡は却々多量の酒を飲む所である、而して腹水患者が非常に多ひやうに思はれる、然れど予の診たる患者十名許に就て既往を取調たるに一人として飲酒に原因するものを認めない、恐らくは肝の寄生蟲ではあるまいかと思ひつゝある。

▲酒の利

「酒量大觀」などには大に酒の利が說てあるが、これも酒好きの人が書たもので、どうしても手前味噌の味がする、去りながら精神を慰むるの法とし酒を應用して可なる事は確實である。

凡精神を慰むるには色々法もあらうが何人にも殊に修養なきものに用るべき簡易法としては酒より他に之を求る事六ヶ敷からう、借金取が來ても鶯の聲と思はるといふに到ては其作用の巨大なるを知る、花を觀るにも酒なくんば殆ど趣味があるまい。

酒なくて何の己が櫻哉

次に酒がなくて戰爭が出來ると信ずる人があらう乎、戰爭に臨だものは其必要を自覺したであらう、又一面識なき人と會合する時酒を用ゆるときは一見舊知の如くなり易い、人の缺點を看破する事が出來る、面倒なる話が無事に速に落着する事もある、此點に就ては日本人は面談の始より酒を始めて談話の要所に入るのとき既に酩酊して要領を得ぬ事がある、是は應用と度を誤つたもので、無論賛成は出來ぬ、西洋人は大抵要談を終らざれば酒に取掛らぬやうである。

蜀山人が書たものに左の如きものがある。

飲酒法令

一酒は飲むべし、酒はのむべからず

一條句祝儀にはのむ
一珍客あればのむ
一肴あればのむ
一月雪花の興あればのむ
一二日醉の醉をさますにはひとりでのむ
この外、群飲、佚遊、長夜の宴、終日の宴を禁ず
童謠にいはく、おまへその樣に酒のんで猩々にならんず下心、猩々よくのめども禽獸をはなれず、人として禽獸にも鹿猿べけんや
文化十五とせといふ春の日しるす

蜀山人

忠臣藏四十七士の中に就ても酒に關して面白い例がある。

「赤垣源藏」は大酒を呑んで眠りて居りても枕下に鍔の響でもチョットするときは直ぐに跳ね起きて即坐に用事を足す事ができ又醉た眞似をして斥候をする事も出來た、之に反して四十七士に入るべき人物にして藏之助の股肱たりし男があつた、酒を飲むと用に立たぬ男で藏之助も此男には主人の仇をとるまでは禁酒せよと言渡して置た、此男は彼の「小山田庄左衛門」で、年餘も禁酒して居つたが、愈何月何日を以て夜討と決定したる前日、藏之助は此男に二百兩の金を持たして各同志を廻らして武士が借金を殘して死だなどといはれてはならぬとて同志中支拂のあるものゝ支拂をなさしめた、流石は武士の團體だけに殆んど金の必要がなかつて、彼其足で直ぐに之を藏之助に復命すればよいのに、心に油斷が出たところへ、途中にて一寸風呂屋に立寄て、一風呂やつたところが、運の最後、此風呂には「湯女」といつて昔まゝあつた者が居て、同人を二階に通して酒肴を出す事となつた、彼最初は徹頭徹尾石部金吉金兜で居つたが遂に魔術にかゝり、一杯が二杯となり三杯四杯終に度を過して熟醉、熟眠、結局時機を誤つたのである。

右は衛生とは何等關係なきも飮むべき量に關して參考となる也。

何ても物の判決を與ふるには宜しく公明正大ならざるべからず、然るに世人の多くは己の好むところ之を人に施さむとし、酒を好む醫師は之を深く患者に禁ぜず、甘味を嗜む醫師は菓子を胃病患者に許すの傾きがある。

經濟學を講ずる學者も、算術を敎ゆる敎師も、學者、敎師其人が必らず自家の經濟を良くしてあるといふ例は尠ひ、隨分裏店のいかゞはしい所に算術敎授の看板を見る事もあるといふたやうなもので、經濟學をやつたものが經濟が上手、算術の巧なるものが出納を甘くするといふ規則はない、それと同じ事で酒を飲む醫者が病人に酒を禁ずる事もあり又酒嫌の醫者が病人に酒を勸むる事もあつてよろし、此邊は公明正大にやりたいが悪く己の好む所は之を人に施したがる風があるので困る。

由是觀之ば酒に就ての解決は如左くであると思ふ、

一酒は人類の生存就中其社交の爲めに一日も之を缺く事の出來ぬものと思はる是人類、獸類と差ある諸點の中の一てある、何に據て之を知るかといふに世界何れの時代、何れの人種に在ても一の獨特なる酒を持たぬ事のないのに據ても之を知らる、日本人の『さけ』アイヌの『とのと』は勿論フランス人に葡萄酒、ドイツ人に麥酒、ロシア人に『うをつか』あり、同じく米より『あらーく』と稱する酒を造るものもある。

一果して人類に之を缺くべからざるものとするならば之を全然廢止するといふ事は無理である、否不可能である。

一不可能である以上は之を禁ずるといふ方針に務むるは徒勞ではあるまいか。

一酒の利害の別るゝ點は用ゆる酒の性質と其量にあるので、惡酒を多量に用ゆるのと、善酒を少量に用ゆるのとは日を同ふして論ずべきにあらず。

酒の利害は其用る酒の如何と、其量にあるので、惡酒多量の害を善酒少量の結果と同一に論ずるは火事は嫌ふべきものであるが故に火鉢にも火をおこすべ

からずといふと同一筆法である、

一西洋人は酩酊すてふ事を非常に下等視して居る、十年の知己も一夕酩酊せる事を見らるゝならば即時信用を失ふ、就中米國ては八ヶ間敷いが、是は酒に懲りた結果て、飲酒過度の反應(リアクション)である、

一西洋の酒の害を蒙つたのは其用ひた酒が予の所謂惡酒で、强酒であるからである米國の如きは即ち「ウヰスキー」てやられたのである、

即ち酒の利害は之を用ゆる人の量に在るので其量を誤まれる結果害ありたりとて誤まらざる量の害を說くは無理であらう富も其通で無ければならぬものであるが有ても之を用ゆるの法を誤らば害となる此事に就ては畏多くも　皇后陛下の御歌がある

醫者がイザといふ時、用ゆる藥は悉く劇毒藥てあるが運轉宜しきを得れば毒藥變じて、妙藥となるので、酒も富も皆同一理に相違ない、

人は云ふ「其量が六ヶ敷」と、然り六ヶ敷には相違なきも男兒意を決するときは好むところのものを全廢する事すら敢て難きにあらず、其量を減じ若くは適度を超へざる位の事は爲し能はざるにあらず、其之を爲し能はざるものは自制力(セルフ、コントロール)なきものにして其男には大和魂もあらざるべし、而して世界に酒多しといへども日本酒程、害の少ひものはあるまい、ブランデー、ヂン、ラム、ウヰスキー等の强酒と日本酒も下等のものは之を遠ざければ安心と思はれる

要するに酒は節すべきものであつて禁ずる必要はなからうと思ふ、

予は健康時に飲酒せるものと、せざりしものと何れに肺病が多いかといふ事に就て、此四五年間統計表を作りつゝあるが、健康時に飲酒せざりしものに肺病の多きは動かすべからざる事實として現はれつゝある、此事は問題外に渉るを以て他日之に就てお話しやうと思ふ、

(明治四十年元日稿)

●女性の美（續）

醫學士　渡邊房吉君

其個の女性美とは如何なるものであるかは、前回大略申盡しました。以上の美點は生來の形で如何にともする事の出來ぬ點も有りますが、或點迄は自分の心掛け次第で種々の方法で之れを矯正し美しくする事の出來るものであります。就ては御婦人方は凡て前回申しました女性美に影響を來し、密接の關係を持て居る樣な條件をよく心得て置く必要があります。其條件としては衣服、髮飾り、敝物、履物等の裝飾品から、白粉、香水の類を吟味する事も其一條件てありませう。其舉動、行儀によつて醜き體格を美しく見せ、硬き體を柔く見せる事もありませう。手足を美くし、骨立たせず、指を細くする爲に劇しき手仕事を避けたり、荒き運動を避くる事も必要でありませう。冬は殊にひゞ、あかぎれ、しもやけ等を防ぐ爲に、水仕事した手は直に拭ひ去るとか、急に寒さにあてぬとか、手袋、足袋の用意をするとか言ふ樣な事も一の條件となりませう。其外書き立てれば限りの無い事でありますが、併し以上の件々は最早私共が申す迄も無く、世間の御婦人達の熟知せらるゝ事であります。裝飾に怠つて居る人も無ければ、好んで手足を劇しく用ゐて居る女も有りません。只已むを得ざるに出てゝ居るのであります。飾らんか時と資の乏しきを如何せん、勞働せざらんか之れ其人の義務にして職業なるを如何せん、と、云ふ有樣てあります。女教師の方に手があれるから白墨を持つ事は御よしなさいと云ふのは無理て、大原女に骨の形を醜くするからと云つて花を頭の上に戴く事を禁ずるのは彼等に取りて迷惑な話てあります。此處には風姿以上、美以上の或る意味の存して居る事を思はねばなりません。夫故に私は此樣な事には一切關係なく、只醫者として醫學に關係のある側の事ばかりを大略申述べましやう。此事については前回美點を述べた時に各個所々々て少し宛注意は

して置きましたが、今茲に一般の場合を述べましやう。先づ第一に

●一般身體の健康

につきて述べましやう、之れは最早申す迄もない事でありますが、申す迄も無い事を申さねばならぬのは、多くの婦人が健康の事を考へずに徒に裝飾ばかりして居るからであります。健康を失して居る人には元氣が無い、生氣が無い、人の美は其形の美の外に其人の内部に燃ゆる生氣の表現が其一半を成して居る事を忘れては成らぬ。眼光が生々して居る事、口唇の色が眞紅を呈して居る事、頰が櫻色に染まつて居る事、漆の如き毛髮が房々と垂れて居る事、皆之れ健康の賜物であります。目の下は黒き輪暦を印し、眉毛うすく、頰落ち、眼凹みたる、蒼白なる顏に、べた〳〵と白粉を施し、頰紅をさし、眉毛に墨を塗るが如きは、賣婦の化粧と何の差もありません。胃病で口中に臭氣を放ち、口腔の掃除をせぬ爲に齲齒の澤山ある人が、金銀の齒を入れたり、ゼムを啣んだりする事は只惡感を起さしむるばかりで、不健康勝の皺だらけになつた薄黒い手を金剛石入の指環で飾らうと云ふのは無意味であると云はねばなりません。殊に必要なるは

●營養

であります。茲に同じ顏形を持つ二人の婦人が全く異なつた生活狀態を成して居つたとすると、或る年月の後には其美しさに餘程の相異が來るであらう。之れには種々の原因もあらうが、其營養の如何と云ふ事は大なる原因の一つとなるに相違ない。而して此相異は同一の家庭に住んで、同一の食物を攝取して居ても矢張生ずる事を思へば、強ち食物の善惡ばかりに關係のあるもので無い事を知る事が出來ます。營養のよいと云ふ事は、善い食物を攝ると云ふよりは適當な食物を適當にとると云ふ事であります。食物の種類を喧ましく詮議をするのは病人の事で、健康な人は種類は何でも、適當にだに取て居ればよいのであります。牛肉、鷄卵、牛乳で身をかた

めた人が蒼白い顔をして居て、穀物野菜ばかり喰て居る人が元氣盛てある例は世の中に充滿して居るのであります。で、ありますから種類は何でもよい只適當に取ればよいので、適當にとるとは如何するのかと云はゞ

第一、間食をせぬ事　であります、間食は不消化の第一の原因で、日本の家庭では實に盛に間食が行はれて居ります、一寸小供が來たと云ては果物、一寸他家の奥樣が見えたと云つては餅菓子と云ふ有樣である、多分女學校の寄宿舍等でも度々種々な間食會が開かれる事であらうと思はれる。之れ等が皆消化不良を來す原因となつて、常に胃が痛いの、飯がまづいの、腹の工合が惡いのと言て居なければならぬ事となるのであります。

第二、小食に過ぎぬ事　男子には少い事だが婦人社界には常に小食が行はれる。それも家庭に居る時はさうではないが他人の家に行た時には必ず遠慮する、普通の食事の半分位しか食はぬ、どこの奥樣は小食でゐらつしやるとか、彼所の御孃樣は御行儀がよいとか言はれる事を甚しき名譽と思つて居られる。時によると全く喰はないで濟ます人がある、隨分亂暴な話しであります。女學生が辨當の少きを誇らん爲めに、空腹を抱へて忍んで居て、三時に歸つて又食事をすると云ふ事は廣く行はれて居る事であります、かゝる事は全く禁止しなければならぬ、新日本の婦女の衞生の爲に、今の女學生諸君が率先してやめなければならぬ。次に大食する勿れと云ひたいが之れは貴婦人達に對して失禮である、又實際他家で少食に過ぐる事だになくば、家庭へ歸つてから無闇に多く食る事もあるまいから第二條の注意で十分である。

第三、緩〻樂しく食事する事　日本人は常に食事が早きに過ぐる、少くも三十分は一食に費さねばならぬ、消化のよき物と思つても可成よく嚙んで送つてやるのは胃の爲である。又日本の家庭では昔から、默して食事をする事を奬勵して、話をするものは不

行儀となつて居るが飛んでも無い事であります。だまつて睨み合ひをして喰て居ては少しも面白くない、うまくない、從て唾液や胃液の分泌が甚だ少ない、之れ消化不良を來す大原因であります。昔から目上の人や、氣のをける人の前て食事する時に咽につまる樣な氣がすると云つて居るが、之れは實際である、唾液や胃液の分泌が少いから何だか咽喉や胸につかへる樣な氣がするので、食事は宜しく談笑の間に、而も禮を失せずに成すべきものであります。

●月經不順の事

婦人の身體に月經程關係の深いものは無いので、從て婦人の容貌も此爲に支配せらるゝ事は甚だ多いのであります。婦人に始めて月經のある時分には其人の身體の形が全く一變する事でも其事を證する事が出來ましやう。其後毎月、月經のある前には、乳房は緊張し、充實し、腫大し、硬度を増し來り、下腹も緊張し、加之時には顔面に輕度の浮腫を來す事すらある。又月經の後には全身各組織に輕度の弛緩を生じ、何時として多量に出血した時には、病氣の樣な蒼白い顔になり、眼の下には靑き輪線を生ずる事もある位である。斯程に關係の深いものであるから、若し月經が不順を來す樣な事があれば、身體には種々の變化が起つて來る事は疑もなき事である、月經不順を來す病は婦人科病に澤山あるから素人の治療をせないで早く醫に就て診を乞ひ、適當の療法を行ふべきであります。



石炭酸使用の注意

醫學士　渡邊房吉君

石炭酸と云へば「ア、消毒の藥だナ」とは誰一人合點せぬものは無い程で、大臣の交迭や議會の解散

はヨシャ一切御夢中の先生でも、『ソレ傳染病が流行したと』聞いては、急に足もとから鳥の飛び立つたやうに驚き、矢も楯もたまらず、ひた走りに醫家か藥舗にかけつけて石炭酸を買ひ求め、あたり構はず撒き散らすと云ふ有様であります。文明の中心とも云ふべき花の都に生ひ立ち給ふ方々は勿論、片田舎の山里にいぶせき庵を結んでゐる賤の女男等に至るまで、苟も聖代の恩澤に浴して文字の多少を學び、衛生の一端を心得て居るものは、不時の用意として石炭酸をその家庭に備へて置くものが多いのであります。

實際衛生と云へば石炭酸と云ふことは必ず連想せらるべき筈のもので、今日の學說が唱ふる如くに多くの病氣は黴菌が體内に寄生するがために起るものとしたならば、殺菌、消毒と云ふことは豫防の第一策、治療の最大良法であることは云ふ迄もなく、從て殺菌消毒の作用を持つてゐる藥品は衛生上缺くべからざるものであります。石炭酸が西暦一千八百三十四年ルンゲーと云ふ人から造られて以來、盛んに世の稱讚を博し、津々浦々の端までも行渡るやうになつたのも畢竟無理ならぬことであります。

然しながら凡て効顯ある藥品は恰も利刀のやうなもので、一旦其用を過つときは恢復の付かぬ大害を醸すものであります。石炭酸を使用する際にも其用量や濃度などに注意せなければ却て『生兵法大怪我の本』となり、甚しきに至りては貴重なる生命をも失ふことがあります。

元來器具、物件、排泄物等に附着いてゐて、機會があれば乘ずべしとして逸早く人體内に侵入し、夫れ〳〵の病氣を起す黴菌が、石炭酸を浴びせられたが爲めに、急に『青菜に鹽』の狀態となつて、其發育、生長、運動も妨げられ、果ては死滅するに至るものとしたならば、人體の組織も石炭酸のためには亦多少害さるべきは解り切つた道理であります。故に通常黴菌には害に成つても人體には妨げの無い濃度及び分量に於て用ふるものであります。

石炭酸は無色の結晶體でありますが、之を溶かすには通常熱を加へてあたゝめ、次に熱水を加へて攪拌し適度の濃度にするものであります。醫者の用ふるものは其場合に應じて純石炭酸から一百倍乃至二百倍までの間のものでありますが、醫者以外の者が使用するには大に注意すべきことで、器具、物件、排泄物などを消毒するには三十倍乃至五十倍位のものを用ひ、更に確實なる消毒の必要がある際には二十倍の溶液を造つても差支へないが、之を身體の或分分に適用するには篤と思案を凝らさねばなりません。

怪我をしたらば石炭酸水で洗つて充分に消毒し、黴菌を殺して化膿ない樣にし、次に清潔な布で掩ふて繃帶をかけると云ふのは、怪我の應急處置で、專門醫に見て貰ふ迄に施すべきことであります。此際洗滌用に供する石炭酸水は五十倍位のものがよろしい。これより稀薄いのは効力がなく、これより濃いのは危險であります。

石炭酸は元來腐蝕藥でありますから、濃厚な溶液で患部を洗ふと却て之を腐らするもので、素人療治には往々有り勝ちな間違ひであります。近頃見た病人に左の如きものがありました。

勝手元で下女を指揮しながら立ち働いてゐる母の許で、嬉々として遊び戯れて居つた今年三歳の少女は、誤つて厨刀で左の示指と中指との尖端を少し許り傷けましたので、急に「ワッ」と泣き出しました。母はかねて衛生の心得があつたので、急に藥罎より石炭酸を取り出し、綿に浸して少女の傷を洗ひましたが、可愛相に濃い石炭酸がまだ幼い柔肌に働きましたから、指の尖端がだん／＼黒くなり、遂にくされて落ちて仕舞ひ、あたら指の不具な天使となりました。

極めて稀薄な百倍位の溶液でも之を濕布繃帶として施す時には、既に二十四時間位で手足を腐らせるものであります。濕布繃帶とは清潔な布片を藥液に浸し、輕くしぼつて患部に當て、その上より油紙を

掩ひ（浸み出さぬため、）更に綿にて包み繃帶を施すもので、挫傷、打傷、疼痛、腫脹などに用ふる時は大に効力のあるものであります。然しながら斯う云ふ場合には決して〳〵石炭酸の濕布繃帶を用ひてはなりません。何故なれば石炭酸は皮膚の表面及び組織の中から水分を吸收し、其水分を失つた細胞の間からだん〳〵深部へ侵入し、遂に血管を擴張させるやうになり、從て血液循環が不良にして停滞勝ちになり、皮下の組織に浮腫を生じ、一方には局部の營養が害はれ、他方には吸收力が減じて毒素が組織内にたまり、かくて繃帶を施した部分が腐るやうになるからであります。

石炭酸壞疽と云ふのは決して少くない病氣で、多くは素人療治の間違ひから起るものでありますから、或學者の如きは『政府は嚴重に藥舖に命じて素人には一切石炭酸を賣らせるな』と絶叫いたしました。が、悲しいことには醫者の側でも此理屈を知らないで濫りに石炭酸繃帶を施すものがあります、實に衆人を賊する甚しきものであります。

石炭酸は強き腐蝕藥で、動物及び植物に對して極めて有毒なものでありますから、其使用を過まつときは危險なる中毒症狀を起すものであります、故に廣い大きな創面などを濃い石炭酸で洗つた時には、次に稀薄い石炭酸かアルコールで再び洗ふやうにしなければなりません。そうしなければ石炭酸は創面から吸收されて、口から飲んだと同樣な中毒症狀を起して遂に死に到ることがあります。

石炭酸は一種の香ひを持つて居るから他の藥と間違へて飲むやうな氣遣はありませんが、『飢ゑたる時は食を撰ばず』、『渴しては盜泉の水をも飲む』と云ふ有樣で、我知らず一ト呑みグッと飲み干すことは世間に往々ある例です。外科の本を開いて見ると臭覺の鈍い患者が之を水と取り違へ、熱に浮された病人が無考に飲んで仕舞ひ、看護人が他の藥と間違へたりした例は決して少くはありません。怪我と間違ひとは何時ドウ來るか分りませぬから、何は兎もあ

れ用心が肝腎であります。

讀者御存じの昇汞と云ふ藥は石炭酸と同様な目的につかわれますが、無色無臭であるから萬一誤つて飲まれては大變と云ふ事より、通常色素を入れて赤色に染めてあります。然るに私の見た患者に此赤色の昇汞水さへも飲んだ人がありました。それは自殺の目的ではない、一人は葡萄酒と思つて、一人は渴を止めるために枕元にあつた「痰吐き」の中の昇汞水を。

殊に肌の柔かな小兒や弱い人に石炭酸を用ふことゝは大につゝしまなければなりませんが、至極健康に見ふる人でも中毒し易い體質であります、石炭酸に中毒られると、頭痛及び眩暈がし、全身が倦惰く、立居擧動が不活潑になり、食慾が減じ、嘔吐を催ほし、小便の色が緑色から闇黑色にかはり、危篤ときには大小便が眞紅になり、全身に痙攣を起し、次て體溫が下降り、眼の力が鈍くなり、呼吸は淺く、脈搏も惡くなつて、遂に無我の境に入り彼の世の人となるのであります。

石炭酸には斯ふ云ふやうな害がありますから、近來に至りて醫學上に於ける石炭酸の價値は急に暴落して、他の藥のために壓倒せられ、漸く餘命を繋ひて氣息奄々たるに傾いて居ります。之に反して世間の信用は中々厚く、益々廣く濫用せられやうとする狀況であります。醫者でさへ危險として居る藥を素人が平然として得意顏に使用するのを見ては轉た杞憂に堪へぬものがあります。我が敬愛する本會々員諸姉よ願くは石炭酸の作用と用法をと辨へ、直接或は間接に世の誤解を正し、適當誤らざる方法に於て之を使用し給はんことを。

膽石症及び其療法

醫學士　M.　K.　君

膽石症は盲腸炎と同じ様に今日醫學社會で多くの人の興味を喚起して居る病である膽石症と盲腸炎と

は何れも內科と外科の界目にある病であるといふ事に於て頗る類似して居る即ち內科的に藥力で治療すべきものであるか若くは外科的に刀を執つて切り開いて直すべきものであるかを決定するのが極めて困難な病である膽石症は甚だ多い病で十人に一人は必らず有るといふ位であるにも拘はらず往々神經性胃痙攣と間違へられる男女何れに多いかといふに婦人殊に結婚した婦人に多い生前少しも膽石症の徵候の無かつた者でも屍體を解剖して見ると往々膽石の發見せられる事がある而して人の恐れる膽石發作の起るのは膽石が原因となつて膽嚢に炎症を來した場合に顯はれるのである膽石の出來る原因は膽汁が腸の中へ流れて來るのが妨げられて其流れが遲くなるからである此時には膽汁の中に溶けて居る鹽類が析出せられて石となり種々の大さや色や形を呈するのである。

治療法の主旨とする所は腸の働きを盛にし肝臟の作用を旺盛ならしめて膽石の出來るのを防ぐのである此目的を達する爲め昔から下劑を用ひて居る近來「コローゲン」と唱へて甘汞と「ポドヒリン」の化合物が用ひられてあるそれから醫者の方から云ふと深呼吸が宜しいなぜなれば膽汁が絶へず平等に腸の方に流れて來る樣に調節するには深呼吸は絶對的に必要であるからである殊に坐業を營む人や肥滿した人は呼吸が妨げられて膽汁の流れを充分に調節する事が出來ず隨て腸の方から病菌の來るのを妨げる事が出來難い事になる。

昔から膽石症に用ひられて居るものは「カルルス」泉鹽の如き亞爾加里水である此藥は膽石を溶かす力があるそして百人の患者で九十一人迄は慥かな効顯がある即ち肝臟や膽嚢の太くなつたのが小くなるドクトル　フィンクといふ人の說に依ると一回の治療て全く奏効し十年の後と雖も再發せぬといふ事てある、けれ共腹膜の炎症があつたり膽汁の出る道が塞がつたり或は他と癒着するといふ樣な事のある場合には「カルルス」泉療法を施しても効は無いから此

時は是非手術をせなければならぬ又膽汁の通る道に病毒が入つて來て黄疸を起し熱を發し絶へず痛みがあり全身の具合がわるく又は一命にかゝわる樣な事がある時は同じく手術を要する手術の時期を後れる時は手術しても効能が無く且つ身體の抵抗力が減じて居る故手術の効果が面白くない事になるもしも膽石に膽嚢の癌が合併した時には生命を救ふ唯一の道は手術の外には無い膽嚢の手術といふのは之を切り去つたり縫合したりするのであるが今日では餘程進歩して來た、もし手術をしても善くならぬ事があればそれは石が新に出來たのでは無くして全く取り出されずに殘つて居るのである。

小兒の腦病

醫學博士　瀨川昌耆君講話

小兒の癲癇

▲痙攣と癲癇　小兒の痙攣ることをお咄し仕た序に癲癇の事を述べて置せまう、此の癲癇は丁度痙攣るのと同じやうな徵候で素人の眼から見て「之れは癲癇であるか又他の病原から來て痙攣たのであるか」判斷することは出來ません。痙攣る癖のある小兒で極く輕い症だと一時一寸氣を失なつてソコへ仆れても親が驚いて介抱に往く間にモー氣が付いて仕舞う、ホンの一寸の間痙攣て居るのですが斯ういふ狀態に陷る事が月に三四度もあるとか、一二ヶ月間を置いてあるとか又一年に一二度位あるとか夫れも病

症によつて皆違ひますが斯ういふ容態の痙攣かたは即ち癲癇て、別に胃腸の疾患から來たのでもなければ風邪を引いて熱の發したため起つたのでも無い痙攣やうて御座います。

▲治療の見込みある癲癇　癲癇は全く生れ乍らにして脳に一種の變化を持つて居るので、癲癇の親に癲癇の兒が生れるやうな遺傳もあれば、特發するのもある、左もなくば親の脳の疾患があつたため兒は其の遺傳からして癲癇に變じたと云ふ場合もある此病氣は割合に多いのですが輕症なら小兒の時に早く良醫の治療を受ければ殆んど癒ゆる迄位に輕くなるものです、之れは能く親達の心得て置かれたい事で、不幸にして斯ういふ小兒があつたなら、小兒の時から怠らず治療を加へてお育てなさい爾うすれば大人に及んて斯る無慘の狀態を見るに至らしめざる一縷の希望はあるもので御座います。

▲重症の癲癇　去れど重症に至ては全治する望みはないが幾分か輕くはなるものてす詰り斯る重症な癲癇は、年齢を重ぬるに從ひ、脳は痴鈍になつて一人前の人間にはなれません。

脳膜炎

▲昔て云ふ驚風　昔しから民間に言傳はつて居る驚風の蟲と云ふことがあります、蟲又は疳の事は前回に申した通り驚風の蟲などが居て其の蟲が何め病氣を醸すのでは御座いません、驚風と云ひ傳へられたは即ち脳膜炎の事であります、此病氣は何歳位の小兒に尤も多いかと云ふに、哺乳兒時代から四五歳迄の間に最も多いので此の時期を經過する迄は油斷の出來ぬ難病ですから其御注意を怠つてはなりません、去れど注意を仕過ぎて却つて肝腎な注意を誤るのは育兒上有勝ちの失策故ソー云ふ誤解の無いやうに願ひたい、脳膜炎には急激に來るのと徐々に發するのとあるが徐々に發するのは結核性の脳膜炎故實に之れは治療が困難てす却つて急性の方が治療は届き易いのであります。

結核性脳膜炎

▲徴候の顯はれる前　小兒が青い便をしたり、又は乳を吐いたりするのは腦膜炎の發作する最も初期の徴候である事もあるが、靑便吐乳が必ず腦膜炎の徴候とは認められません、却つて便秘などして、輕い熱があつて何處か惡いに相違ないが、夫れては何處に病氣があるかと云ふ事を、醫師ですら一度診察した位では、何の病氣だと捉へどこの無い事がある、ソコで斯んな狀態で數日經過するか、或は永いのは一週間も二週間も此狀態が繼續と漸次に腦膜炎の徴候が顯はれて來ますが之れは前にお咄し仕て置いた徐々に發する結核性腦膜炎の極く初期の徴候を顯はして來る經過の有樣で御座います。

▲痙攣る前の狀態　處てモー立派に腦膜炎の徴候を呈して來ても斯く徐々に發する腦膜炎はソー直ぐには痙攣ません、未だ其前に小兒は斯んな狀態に陷ゐるのです、先づ晝夜睡眠にのみ耽り目の醒めるともなくウト／＼眠つて計り居て親が仕向けなければ二日も三日も乳も飮まず、又食物も食べずに居ります、其の上泣きもせず恍惚として平常好きな玩具を見せても喜びもせず笑ひもせずに居るし、折々顏をしかめて頭腦でも痛さうな容子をします、其の外頂の筋が堅くなつて、手足は突張た儘て暫く縮もせずに居たりすることがある、斯ういふ容態を見たら親は決して油斷はなりませんよ、此時醫者が診察すれば腦膜炎と云ふ斷定は直ぐに下されますので彼樣此樣して居る内に病勢は進んで來て痙攣るし乳も飮まずに恍惚して居ります。

▲助からぬとも限らぬ　徐々に來る結核性腦膜炎は先づ十中の八九迄は生命を繫ぎ止むる事覺束ないが、左ればとて見捨てゝ仕舞ひ「モー駄目だ迚も助からぬ」と諦めは付られません、手當を盡した結果不圖病勢が衰へて痙攣る事も止み乳も飮始めて危き生命の助かる事もあります、斯ういふ實驗は之れ迄大分私の病院（東京小兒科院）でも手懸たとがあるのです夫れ故決して投棄てゝ諦めて仕舞ふ事は出來ない、醫師も親達も盡す丈有らゆる手段を盡した上

には今も申す通り助かる小兒も御座いますのです。

▲後へ故障を殘す　併し助かつても斯ういふ結核性の腦膜炎では何か跡へ故障を殘すのが多いので困ります、大抵は眼が見えなくなるとか、手足の自由が利かぬとか痴鈍になるとか、其内の一ツは何うも逃れにくいのです、去れど故障を殘すのも其の程度があつて、少し計り故障を殘すもあれば、多く故障を殘すもあるが病氣の經過が永いと其の故障が多いのです、以上述べたのは徐々に來る結核性腦膜炎に就てのお咄してすが急激に來る腦膜炎は何ういふ經過であるか又其徴候や結果は次回に讓りませう。

急激の腦膜炎

▲急激の腦膜炎の徴候　昨日まで元氣良く遊んで平常の通り乳汁も飲む、食物も進む、兩便なども異りのない健康な小兒が、今日になつて急に熱が起り、乳汁又は食物などを吐き未だ痛いとも痒いとも發語の出來ぬ小兒に在つては、頻りに顔をしかめ頭腦の痛む容子を顯はし、既に三四歲に達せし小兒は「頭が痛いよ〳〵」と頭をおさへて苦痛を訴へる、斯る徴候が小兒に顯れたら、親達は大に注意を要しなければなりません、之れは多く急激の腦膜炎が發作する徴候であります、此病氣は如何にも急に激しく病勢が嵩まるので夫れから間もなく痙攣て仕舞う小兒もあれば、又二三日幷んな容態て居て夫れから後痙攣ることもある、急激に發しても其の症によつて痙攣る迄の時間に長短の相違はあるものですから一樣には申されません、扨又玆に腦膜と脊髓膜とを侵す急激の病ひがあります之れは流行性腦脊髓膜炎と申しますが序に此の病氣の事を述べて置きませう。

▲流行性腦脊髓膜炎　流行性腦脊髓膜炎は一種の傳染病であるが幸に日本には少なかつた、中にも東京には至つて稀であつたが三四年前から東京にも侵入し來つてポツ〳〵發生し大に醫師の注意に上るやうになりました、元來流行性腦脊髓膜炎は西洋にはナカ〳〵流行し猖獗を極めたこともあり、小兒病としては殊に恐るべき病ひの一つとしてあります、近頃

東京に流行する此病ひは大人にも多いやうて獨り小兒には限らぬやうてある、ソレて其病症は名の示す如く腦と脊髓との兩樣を侵す病ひですけれど大體は腦膜炎の急激なるのと大なる相違はありません故、先づ素人方の心得としては急激な腦膜と思召して差支へない、只幸ひの事には日本の流行性腦脊髓膜炎は唯今の處では傳染の勢力が弱いし又傳染性てないのもあるから、實際は世間て云ふ程左程恐るゝには及ばないのです。

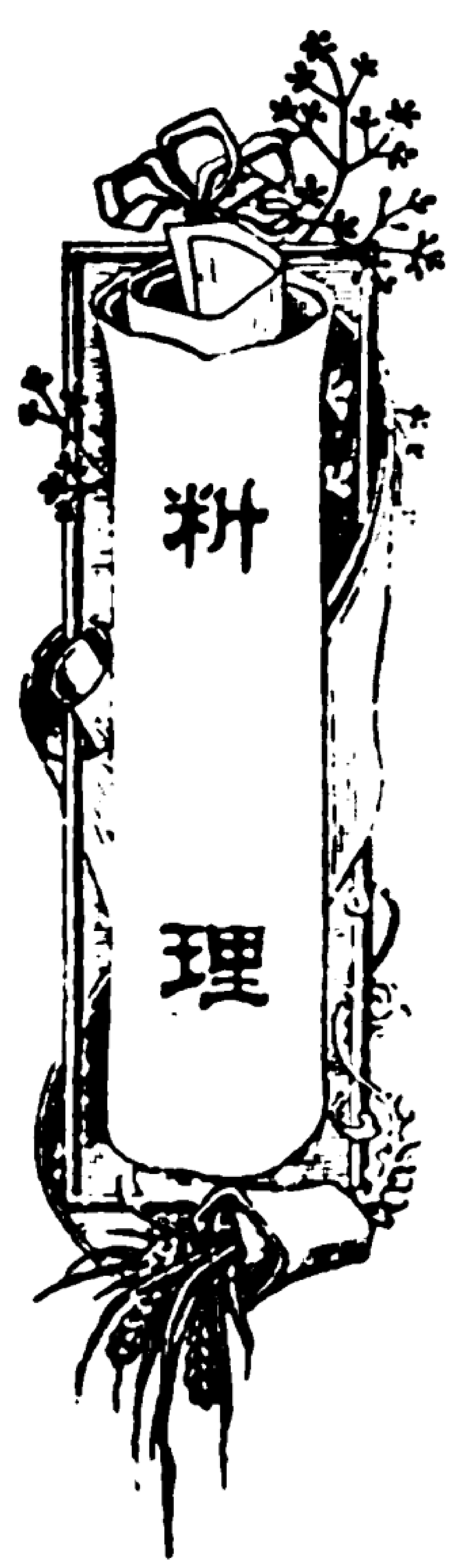
▲腦膜炎の誤解　一時腦に充血した爲めに痙攣たのてなく實際腦に故障を生じて腦膜炎と云ふ病名が付いたなら親達の驚くのは一通りてありませんが之れは實に御尤もなことてす併し徐々に來る腦膜炎だと却つて親は安心し「病氣が長引いて居るから助命らぬ事はなからう」と聊か油斷するものがある、夫れに反し急激に起つた腦膜炎だと却つてハラ〳〵して氣も轉倒する計り驚かれます、急激てあれ徐々てあれ、安心は出來ぬ病氣だが、何うも世間の親々は考へ違ひをして急激に來たからモー助かるまい徐々に來るのだから助からうと思ふのは大間違て御座います。

▲急激の腦膜炎は治療し易い　一體急激に發する腦膜炎と、徐々に發する腦膜炎とは全く其性質が違つて居ります、前にも述べた通り徐々に病勢の進む腦膜炎は結核性であるから分けても治療が困難てあるけれど急激の腦膜炎に至つては結核性てありません、夫れ丈急激に起る方が却つて比較的治療が仕易いばかりでなく生命に關する忌はしき事も先づ比較的少ない、夫れから全治の後に及び、身體に故障を殘す程度も割合に少ないのです。

▲急激な腦膜炎て痙攣た時　嘗て或る夫人が小兒の腦膜炎に就き質問をされたから、大略之れ迄述べたやうな事をお咄し仕たら其後不幸にして其の愛兒が腦膜炎に罹り急に痙攣ましたさうです、處が此夫人は母親として誠に機敏な處置を取られ「此兒は腦膜炎の爲めに痙攣たのか又外の病氣で痙攣たのか孰れ

にしても痙攣たときの取扱ひに異りはないだらう」と直ちに前にお咄し仕て置いたやうな痙攣たときの應急處置を施され、迎ひの醫師の來るのを待つて居られたのです、此處置が非常に當を得て居たので急激な腦膜炎ではあつたが治療の上にも好都合でありました、總て急激な腦膜炎でも徐々に來る腦膜炎でも孰れにせよ痙攣たときの手當は一般に小兒の痙攣たときの取扱ひをなさい決して何れの之れのと手當に違ひのあるものてありません。

▲腦膜炎の取越苦勞　腦膜炎の爲めに大切な愛兒を失なつた親々は世間に澤山御座います、腦膜炎ほど恐ろしい小兒病は無いと云つて兒を持つ親は隨分取越し苦勞をなし小兒が少し熱が出たり、大便の色が異つたりすると直ぐに腦膜炎ではないかと大方ならぬ心づかいにて、オド〳〵した取扱方を致すばかりでなく醫師が大丈夫腦膜炎では無いと受合つても未だ疑念を抱かるゝやうな事がありますけれど小兒が病氣の都度腦膜炎ではあるまいかと取越苦勞するのは早計で御座います、獨り腦膜炎ばかりが小兒の生命取と云ふ病氣ではない胃腸の病氣とか又風邪の爲めなどで親の手當にぬかりがあつて重體に陷らしむる事は澤山御座いますから其の思召に願ひたい、夫れから長子も次子もと云ふやうに腦膜炎で斃れた爲め遂に大勢の小兒があつても一人も種無しになつたやうな親々もありませうが斯ういふ不幸に陷つたのは生れる小兒も、生れる小兒も孰れも腦膜炎に襲はれ易い素質を遺傳されたので、詰り結核性の黴菌に襲はれ易い體質を生れ乍ら持つて居るからであります。



治庭台本部主事　安西こま子君

▲ボイルド、フイッシュ
エッグクスソース

鯛を三枚におろし、適宜の切肉となし、鹽を撒りかけて暫らくおき、之を鍋に入れ、之に淡鹽水を切肉が被る程加へ、尚ほ玉葱一個を適宜に切りたるものを加へて火にかけ、湯煮を爲すべし。

エグスソースは、牛酪と米利堅粉とを大匙一杯づゝ鍋に入れ、火にかけ、絶へず杓子にて攪拌ながら煮、プップッと沸へるを度とし之に牛乳と肉のゆで汁とを等分に加へてドロ〳〵加減にゆるめ、次に鹽と胡椒と加へて味をつけ又之に茹鶏卵一個を微塵に切りしものを加へて一寸とかきまぜ、一と沸して鍋を火よりおろし、更にみぢんに切りしパセリを少しく加ふべし。

▲ブロイルド、ピーフ

蚕豆

馬鈴薯

玉葱

ブロイルド、ピーフは、牛のヒレ肉或はロース肉を撰び、平たき薄切肉(一斤三十目壹人前)となし、平鉢の中へならべ其上より少しくヲリーブ油を注ぎかけ、暫らくおき、別に焜爐に火をおこし、落着きたる強き火となるを待ち、其上へ六七寸隔てて金網を懸け渡し此網の上へ右切肉を載せ、鰻を燒くと同樣に絶へず團扇にあふぎながら燒き、片面が燒けたるとき裏返し、鹽と胡椒とを撒りかけ又他の片面が燒けたるとき其片面へ鹽と胡椒とを撒りかくべし。

蚕豆　は鹽ゆでになしたる後ち牛酪にて煠め、少しく牛乳を加へ尚ほ鹽と胡椒とを加へしものなり。

馬鈴薯　は、皮をむき、水の中へ暫らく放ちおきて灰汁をぬき、之を沸騰湯の中へ投じ柔らかになりしとき湯を切りホイロにかけしものなり。

玉葱は幅一分程のせんに打ち、之をフライ鍋に入れ、之に牛酪を加へ火にかけ、十分に永く煠めつけ更に鹽と胡椒とを加へ味をつけしものなり。

▲ストロベリー、ジヤム

苺(百目)を水にてザット洗ひ、水氣を十分に切り、之に三盃砂糖(百目)を加へて半日間程おき之

を鍋に入れ、火にかけ、絶へず杓子を以て攪拌なから煮、凡そ三十分間程煮るべし之を蓋付の器に入れ、目張りをなしおけば永く貯へる事を得べし。



質疑

○問　入床直ちに寢付かれず就眠中は種々なる雜夢を見困難致居候につき療法御教示被下度候。

京橋　一會員

○答　入床直ちに寢付かれざるは種々の原因もあるべきなれ共健康の人にありても、飽食は確かに不眠の原因の一なるべし、故に晩餐は成るべく就褥前少なくとも四時間前にするを可とす、若し疾病とすれば、神經衰弱症等を始めとして、種々の原因あるべし、故に相當の醫師に診察を乞ひ、速に其原因を尋ねて、適當の療法を施すを必要とす。

○問　まぐろ或は鰹魚などによひたる時は如何の手當致してよろしく候哉伺ひ度候。

札幌　會員

○答　まぐろ或は鰹魚などに酔ふといふは、其魚肉中に存する毒素（肉の腐敗によりて生ず）の作用によるものあれば、吐劑又は下劑を用ひて食したるまぐろ又は鰹魚を體外に排出するを以て專一とす、此の如く、應急の手當を施したる後は速かに醫師を招きてその診療を乞ふべし。



雜報

○健康診査及び衞生協議

醫學博士遠山椿吉氏の主宰せらるる東京顯微鏡院に於ては此度保健部を設け、健康診査及び衞生協議の事務を實施せらる、其主旨及び規定は左の如し。

東京顯微鏡院保健部の主旨

健康診査と衛生上の協議

世人は醫術を以て單に治病の必要あるものとし、而も個人及家族が無病息災の日に於て更に大に之を利用すべきを解せざるもの多し、見よ歐洲先進國の家庭には平素所謂家庭顧問醫を迎へて其の安寧を保ち病患を未發に防ぐの良習慣あることを、個人の身體は千人千差、老幼あり、男女あり、剛柔あり、健病あり、啻一の法を以て衆諸を規せんとするの非なるは言ふまでもなく、時により場合に應し生理の原則と衛生の理法によりて之に處し之を治するもの即ち醫術の活法なり然るを世人輙もすれば一藥を以て萬人の同病に効ありとし、一法を以て萬人の保健に適するものとし、實施効なきに至りて自失煩悶するものあり、自己の體力を揣らす不相應の事業に當りて失敗するものあり、身に弱點あるを覺らず學に就て成功を誤るものあり、身病あるも之に處するの法を講せす災を無辜の伉儷兒孫に遺すものあり、他の病あるを悟らす之れに接して自己又は家眷に不慮の不幸を招くものあり、煩悶の極未開矇昧の遺法を迷信し貴重の身神を擧けて方位巫咒の指示に一任し身を過り事を敗るもの比々として之あり、豈に浩嘆に堪ふべけんや。

本院は之を聖世の一恨事とし、自今院内に保健部を設け普く需めに應して一切の健康狀態を診査し、兼て衛生上百般の協議に應し、疑義を解き適法を示し、以て大に同胞の壽福を增進せんことを期す。

明治四十年一月　東京顯微鏡院保健部

東京顯微鏡院保健部規定

第一欵　診査　協議　種痘

第一條　當部は需に應して左の五類の事項を爲すものとす

第一類　職業及事業の堪否診査

航海の堪否診査

就學、兵役、就職の體格豫診

結婚男女體質體格の適否診査

乳母の適否診査等

第二類　一般疾病の有無、病症の診査

個人疾病有無の診査

身體異常、弱點の診査等

第三類　體力增强法の指示

一定疾病の攝養法及治療法指示

身體の異常、弱點の矯正法指示

急性及慢性傳染病豫防法指示

體質、遺傳等に因る疾病豫防法指示

配偶體質の撰擇法指示

第四類　衞生上各種の協議

第五類　種痘

第二欵　診査

第二條　診査は其目的により甲乙二種に別つ

甲種診査、身體に異常を感し而も其原病不明なる時の如き又異常感の有無に關せず身體全部失常の有無を檢定せんとするが如きは全身の內外各臟器系統を審査するの必要あり又場合により各種分泌排泄物の化學的又は顯微鏡的試驗を并せ行はざる可らず是れ身體診査の最も周密なるものにして此診査には「第一號診査證」を交附す

特に請求あり本部に於て差支なしと認むるものに限り詳細なる診査原簿の寫を交附することあるべし

此診査は一回にして終了せず二回以上の來院を要することあるへし

乙種診査　學校入學又は一定事業の堪否を決するが如きは普通の體格體質と應用すへき局部の健否强弱とを診査するを以て足れりとす普通の體格檢査即ち之なり此診査には「第二號診査證」を交附す

第三欵　指示

第三條　本部の協議を受け又は示指すべき事項槪れ左の如し

一　前條の診査を經たる上に諸種の指示又は證明を望むもの

二　病症、異常等既に明白なるものにして其攝生法、處置法等の指示を望むもの

三　邸地、家屋の構造衞生上の適否其消毒、飲料水、牛乳、母乳、其他飲食物の良否、温泉、海濱、轉地先の適否其他衞生上の事項に就き說明指示を望むもの

第四條　前條第二項は本所の診査を要せす單に醫師の診斷書、檢査證、證明書、處方、當人親戚又は友人（責任ある）の陳述に基き其質問、協議に對し「指示要領」を交附し其攝養法、治療法、矯正法、處置法等を指示す但し要求の事項明白ならざるときは當部の診査を要することある可し

第五條　種痘は點檢の後「種痘證」を交附すること常規の如し

第四欵　疾病の處置

第六條　本部は自ら疾病の治療に從事するを主意とせざるを以て一切藥劑を交附することなし但し希望により適當なる專門家を指示又は紹介し或は特別の場合に於て處方箋を交附することある可し

第五欵　委囑手續

第七條　身體診査は月曜日を除き午前九時より午後四時までに當人來院せらる可し但し特に出張を望まるゝ向は電話又は其他

の方法を以て申込まる可し

第八條　協議又は質疑事項は信書にて申込るゝも妨げなし

第六款　料金

第九條　普通診査料は左の如し

甲種診査料　金三圓以上

但し診査原簿寫を要求するときは其料として更に金壹圓を申受くへし

乙種診査料　金壹圓以上

指示料　金壹圓以上

種痘料　金貮拾五錢以上

學生又は貧困者は必しも本條に據らざることあり

第十條　頻次又は多數の診査を囑せらるゝときは特に料金を約することあるへし

第十一條　專門家紹介、處方箋交附は相當の手數料、衛生又は保健上の検査にして出張を要するときは相當の實費を申受くへし

第十二條　第三條第三項の検査にして既に本院の規程あるものは之れに由り其他は相當の料金を申受くへし

第十三條　委囑事項の信書には必ず返信用郵券を添へらる可し

東京市神田區小川町一、（電話本局一三五二）

東京顯微鏡院保健部

院長醫學博士　遠山椿吉

大日本婦人衛生會記事

山形支會報告

●新年會

一月廿六日正午より山形ホテルに於て婦人衛生會新年會を開く出席者六十餘名にして盛會なり、彈琴福引等の餘興ありて午後五時各々歡を盡して散會せり。

新潟支會

●二月例會

去二月十七日午後一時より新潟師範學校附屬小學校に於て當市婦人教育會と聯合の上例會を開き出席者二十餘名講師及演題は左の如し。

凍傷と凍瘡　長谷川一銓君

學校と家庭の關係　井部貞吉君

米澤支會會員姓名

◎顧問及賛成員

矢尾板道雪　高橋遂之助　矢尾板信正
仁科盛忠　猪股松三郎　高橋肅
關新太郎　上村惟一　宮崎厚花
上島善助　加藤慶三郎　鈴木莊
中條梅節　講師 水野廉平　講師 高野隆造
講師 楠川良作　戸澤又太郎　宮永周

◎役員

會長　上杉安子
副會長　松山秋子
幹事　田中みと子　幹事　草刈たつ子
同　仁科さと子　同　上倉たけ子
同　近藤ゑつ子　同　小濱せい子
同　猪股はる子

評議員　加藤はる子　楠川たま子　島あさ子
仝　中山こと子　高埜まつ子

◎特別會員

渡部みか子

◎通常會員（甲種）

仁科さと子　吉田せい子　楠川たま子　松山あき子　宮崎てい子　猪股はる子　深澤ちよ子　楠川せん子　近藤ゑつ子　高梨はるの子　古澤みれ子　大竹よれ子　佐藤うん子　五十嵐ちよ子　前田みよ子　宮本ます子　後藤こま子

加藤はる子　田中みと子　草刈たつ子　有壁はな子　三島てつゑ子　楠川はる子　藤本いち子　西海枝せい子　神尾くに子　吉澤りん子　中山こと子　針生さだ子　岩松かつ子　松島ふて子　下山いそ子　山田やそ子　加藤てる子

上倉たけ子　中條ゆき子　矢尾板あき子　背木しげ子　島あさ子　兒玉てい子　堀ちよ子　塚田のぶ子　遠藤きり子　小田切てい子　本ちゑ子　二村ひさ子　倉橋ゑつ子　町田ひて子　加藤しん子　瀬原田なつ子

◎乙種會員

山田きち子　山本よそ子　四條ふちの子　益田わき子

小山しん子　小濱せい子　村山つき子　加藤かつ子

角はる子　神尾ちう子　曾矢きう子　田中うん子

菊池こう子
九里とみ子
大熊さき子
高橋よし子
小山うん子
芦川つき子
山口つや子
遠藤みつ子
東河江ろく子
竹村ひて子
登坂しら子

◉高崎支會役員姓名

支會長　星野きよ子

副會長　相川すか子

幹事（點數順同點ハ入會順）

齋藤れう子（會計）
土谷ひやく子（庶務）
長谷川りて子（會計）
三橋ひろ子（庶務）
高草木かれ子（庶務）
財津いく子（會計）

評議員

相澤小松子
正木操子
鈴木くら子
高山はろ子
本多奘佐子
天利いし子
相川はま子
中村すゞ子
清水かれ子
萬谷操子
村上まつ子
福田あい子

高崎支會現在會員姓名錄（明治四十年二月十三日調査）

◉終身會員

横井昇子
星野きよ子
土谷ひやく子
三井田婦奘子

◉特別會員

伊藤芳枝子
吉村ゑい子
小林ゆき子
清水かれ子
林はま子
小澤みれ子
高草木かれ子
相川すか子
篠原已和子
落合きよ子
中島けう子
秋元はつ子
渡邊鶴子

◉通常會員

岩田まさ子
今井八千代子
今坂とし子
岩本のぶ子
長谷川りて子
別當富士江子
大須入留子
岡田りき子
小澤てろ子
小倉みつ子
綿貫もり子
芳野千代子
吉野くま子
横田たけ子
武谷せん子
田邊梅子
堤とみ子
中村さだ子
中嶋よれ子
植原とく子
野中八重子
栗山もん子
石井ひさ子
飯塚さと子
飯塚とく子
乾てい子
長谷川しげ子
豐泉むめ子
小幡德賀子
岡田きく子
小保方茂代子
大塚まさ子
萬谷操子
横堀よし子
横山しげ子
横山よし子
田中れい子
反町せい子
土橋はや子
長井まさ子
村田とも子
野本登久惠子
久保村てろ子
矢島あき子
井上げん子
井上ゑい子
岩崎つれ子
織山きち子
本多奘佐子
大山うら子
大村幸子
大熊久枝子
小笠けん子
岡部あい子
笠原あいの子
宮田芳枝子
吉田たか子
吉井きみ子
高山はろ子
塚越まさ子
津田くめ子
長澤はろ子
村岡ひろ子
信澤たき子
栗木ろい子
山本めよ子

山口かの子
山田はな子
馬渡なか子
長名子てる子
深町なみ子
福田千代子
小島きく子
小林きみ子
小島きん子
秋山たつ子
阿部むら子
相川はま子
天利いし子
財津いく子
櫻井くに子
相眞はま子
貸志はん子
三橋ひろ子
三木あさ子
清水なか子
平野まさ子
住谷しづ子
末村いく子

山田せい子
矢島やす子
松本うた子
松尾光子
吉[illegible]はる子
藤守竹子
小林満智子
後藤きい子
小島ふじ子
新井こう子
相澤小松子
天引みね子
芥川たつ子
齋藤れう子
齋藤よう子
木戸のぶ子
岸しづ子
宮崎よね子
神保えつ子
樋口すみ子
樋口てる子
須藤たに子

山木寮和子
山内ふさ子
正木操子
福田愛子
藤崎きく子
藤田菊枝子
木暮すみ子
小暮光治子
天野あい子
相川とみ子
相川とり子
新井てる子
佐藤松枝子
坂部米子
佐藤たれ子
北澤はる子
岸よし子
三澤豐子
清水梅子
平野つれ子
關根とくれ子
鈴木久眞子

◉同上高崎市外居住者

新潟縣　伊藤桝子
群馬郡　新旭はる子
前橋市　山下甲子
多野郡　横山幸子
埼玉縣　長井とよ子
東京市　町田まつ子
東京市　飯塚梅子
青森市　村上まつ子
福井縣　金子はな子
新田郡　塚田さあ子
福井縣　上野つれ子
碓氷郡　松本禄子

前橋市　松宮晴子
相州逗子　新井幸枝子
前橋市　佐藤はな子
仙臺市　秀島ゆき子
群馬郡　後閑かつ子
長野縣　佐藤愛子
和歌山市　水谷蝶子
大分縣　山崎しげ子

◉支會限會員

岩崎ひさ子
岡垣愛子
松尾好子
相澤かく子
鈴木きみ子
土屋よし子
岡本ひて子
笠原もり子
松岡きく子
宮下きよ子
鶴田ひさ子
高野いせ子
岡本あさ子
吉田千代子
松岡たか子
清水千代子
清水もと子
鈴木むら子

◉終身贊成員

岡本六左衛門君

◉特別贊成員

秋田　野添光君
櫻井忠國君
土谷余次君

◉通常贊成員

田部井巳之八君
深井小五郎君
齋藤壽雄君
關　龜齡君
反町供哉君
古屋富一君
渦邊勝太郎君
生澤一太郎君
小林春造君
島矢豐三郎君

◉篤志贊成員

小幡氏電君

弔詞

本會會員井野くに子の君は去る二月九日逝去の訃音に接す、本會は

謹みて哀悼の意を表す

大日本婦人衛生會

順天堂副院長醫學士佐藤恒久氏は久しく病褥にありしが藥石其効を奏せず遂に二月廿六日遠逝の訃音に接するや本會は不取敢幹事高木夫人參堂弔辭を述べられ又三月二日葬儀の節生花一對を靈前に供へ本會役員を代表して事務所員會葬せり玆に

謹みて哀悼の意を表す

大日本婦人衛生會

○本會入會者

○大學諏訪なみ子紹介

●青森縣三戸郡八戸朔日町　賛成員　種市良一

●赤坂區青山高樹町十二、二號　通常會員　小田島はつ子

●青森縣三戸郡八戸町八幡町　通常會員　南部とも子

○神田大關ちか子紹介

●麹町區有樂町一ノ五、毎日新聞社内　通常會員　菅野須賀子

○日本橋志村誠應君紹介

●北海道千島國紗那郡留別村　通常會員　島崎ひさ子

○長野黒岩貞子紹介

●長野高等女學校寄宿舍　通常會員　野地かい子

○神田尾崎つや子紹介

●赤坂區青山南町六ノ四十七　通常會員　内藤梅子

○長野佐藤玉子紹介

●長野縣上田町海野町一丁目　通常會員　山浦友子

○麹町青戸咲子紹介

●麹町區永田町二ノ三十　通常會員　藤田とよ子

○京橋越智雪子紹介

●麹町區永田町二ノ七　通常會員　佐川こと子

○事務所申込

●小石川區表町五十九、同志婦人會内　通常會員　但馬和かの子

○麹町區永田町二ノ十五、平田方　通常會員　高橋まち子

○改姓名

●芝特別會員水野清子改め　辰馬清子

●下谷茺木てつ子改め　小澤てつ子

○高崎支會入會者

○天利いし子紹介

●　通常會員　木村きく子

○相川すか子紹介

●高崎市柳川町十六番地　特別會員　林はま子

○土谷特賛紹介

●仝市赤坂町　贊成員高崎市長　生澤一太郎

○齋藤れう子紹介

●仝市赤坂町　通常會員　津田くめ子

○相川すか子紹介

●仝市宮元町　陸軍一等軍醫醫學士岩崎小四郎妻　通常會員　岩崎つね子

○秋田特賛紹介

●仝市竜見町　高崎市立中央小學校々長　贊成員　深井小五郎

○宇都宮支會入會者

○幹事須賀えい子紹介

●　通常會員　猪股とく子

○堀内くに子紹介

●　龜田せい子

○幹事稲井よし子紹介

●　戸田とく子

○評議員望月とく子紹介

●　通常會員　宮崎てえ子

○松本とく子紹介

●　通常會員　木南みね子

●　通常會員　渡邊らく子

○支會事務所申込

●　通常會員　小林たくえ子

○山形支會入會者

○幹事佐柳ちよ子紹介

●山形市旅籠町　特別會員　毛呂まさ子

○幹事高木かう子紹介

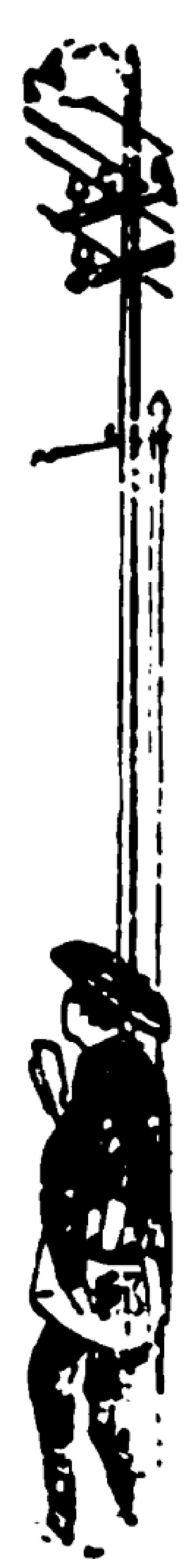
●　通常會員　高橋せい子

●　通常會員　野々村さだ子

●　通常會員　大津まさ子

○新潟支會會員變更

●通常改め特別に　田中まち子



轉居

●筑前國鞍手郡下境村麻生商店へ　横倉照子
●麻布區仲ノ町二へ　川浪時子
●日本橋區蠣殼町二ノ一へ　花岡ゆき子
●麴町區上六番町卅一へ　奥田たか子
●麻布區三河臺町廿五へ　大島貞子
●麻布區新龍土町十二へ　吉原かや子
●牛込區赤城下町五十三へ　江口春子
●米國クリブランド市テトロクト街二五六五へ　山口靜子
●牛込區山伏町二十九へ　河村玉子
●本郷區弓町二ノ卅へ　中江あし子
●兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾へ　辰馬清子
●秋田縣北秋田郡大館町へ　横山壽子
●淺草區久堅町二、小澤方へ　小澤てつ子
●牛込區下宮比町十四へ　巌崎こと子
●大阪市北區曾根崎仲二丁目番外二五一へ　高島なを子
●赤坂區青山高樹町十二へ　川添はる子
●小石川區關口臺町廿一へ　呉みな子
●牛込區原町二丁目へ　石栗とせ子

○寄贈交換雜誌

●日本赤十字　京橋區築地二ノ廿一　日本赤十字發行所
●日本婦人　府下豐多摩郡澁谷村字常磐松御料地内　帝國婦人協會
●新潟縣衞生會雜誌　新潟縣廳内　新潟縣衞生會
●日本の家庭　神田區神保町二　同文館
●日本の商品　名古屋市矢場町一ノ切二七一　日本の商品社
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
●東京市敎育會雜誌　東京市役所内　東京市敎育會
●東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二ノ十九　東京小間物化粧品卸商事務所
●同仁　神田區一ツ橋通町廿一　同仁雜誌社
●東京文具紙墨硯商報　日本橋區檜町四ノ十二　同　社
●治療藥報　日本橋區南茅場町二　治療藥報社
●女世界　牛込市谷河田町　東京女醫學校
●大阪婦女新聞　大阪西區江戸堀南通一ノ十四　大阪婦女新聞社
●家庭新聞　熊本市内坪井町一五八　家庭新聞社
●家庭雜誌　麴町區元園町一ノ廿七　由分社
●家庭の栞　新潟縣女子師範學校内　新潟縣女子教育會
●大日本私立衞生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衞生會
●體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會
●通俗衞生　大阪西區土佐堀三ノ廿九　大阪私立衞生會
●なでしこ　麴町區下二番町卅七　大日本女學會
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町上屋敷六五　牟婁新聞社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新報　大阪西區江戸堀下通三ノ卅六　藥石新報社

●藥業時報　神田區鍛冶町廿一　藥業時報社
●婦人世界　大阪南區末吉橋通四ノ六十三　浪華　人會
●　新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●國家醫學會雜誌　本鄕區元富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●工手ノ母　大阪北區西野田新家四ノ町番外三二五　工手の母新聞社
●交通世界　玉縣浦和町三九三五　交通協會
●越佐敎育雜誌　新潟市東仲通一番丁二一七　越佐敎育雜誌社
●廣島衞生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衞生醫事月報社
●英　　生　神田區駿河臺北甲賀町十　東　西　社
●衞生新報　和歌山市小松原通三ノ一　衞生新報社
●衞生新報　下谷池ノ端仲町十九　衞生新報社
●愛國婦人　麹町飯田町一丁目　愛國婦人發行所
●草樂新聞　大阪南區心齋橋筋二ノ百七　草樂新聞社
●産科婦人雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本産科婦協會
●埼玉衞生新誌　埼玉縣北足立郡浦和町二三五　埼玉生新誌社
●敎育公報　神田區一ツ橋通町　帝國敎育會
●明治の家庭　牛込區納戸町五　明治の家庭社
●みづゑ　小石川區關口駒井町三　鳥　會
●兒童敎育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大學精神病學敎室内　日本神經學會

私立大日本婦人衞生會

高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一　當支會は大日本婦人衞生會に隨し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす ●第二條 當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く ●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす ●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條 本會の特別贊成員を定員外の評議員とす ●第十條 當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす 總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條 會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絶する事あるべし ●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず 支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす 但三箇月分以上宛前納すべし ●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集合の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所　高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必や衛生と相竢ちて而る後始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上會員は一月拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を賛成する通常者は之を賛成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くるを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。（死亡等は親戚知人より通知せらるべし）●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講話演說又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるべし）●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓　特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢　支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しけ子方

新潟支會

私立大日本婦人衞生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は綿布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評儀員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回（第一日曜日）講話ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキニ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ綿布ヲ用フルヲ禁ズ第九條特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地行森氏方

宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黑塗箱入送費九錢）　六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便わるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京市下谷區竹町五番地
編輯兼發行者　齋藤淸之丞

東京牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治四十年三月十六日印刷
全年三月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百八號
（毎月一回二十日發行）